

第255回 NRIメディアフォーラム

ランキングによる都市の持つ「成長可能性」の可視化 ～地方創生の成功の鍵はどこにあるのか～

2017年7月5日

株式会社 野村総合研究所

社会システムコンサルティング部

上級研究員 小林庸至

グローバルインフラコンサルティング部

副主任研究員 波利摩星也



本日お伝えしたいこと

- 地方創生の一つの理想像は、地方都市が、大都市に依存せず、自立して世界と結びつき、外貨を獲得できる「ローカルハブ」になること。
- NRIでは、各都市の強み・弱みを明らかにし、ローカルハブとしてポテンシャルの高い都市を見極めるため、都市圏の人口規模等を考慮して選定した国内100都市を対象に、「産業創発力」の現状及び将来のポテンシャルを評価した結果をランキング。
- 海外におけるローカルハブの成功事例を分析し、評価の視点として、「①多様性を受け入れる風土」、「②創業・イノベーションを促す取組」、「③多様な産業が根付く基盤」、「④人材の充実・多様性」、「⑤都市の暮らしやすさ」、「⑥都市の魅力」の6点を設定。
- 分析した結果、福岡市をはじめ、地方部にも、さまざまな強みを持ち、ローカルハブになる可能性を有した都市が多数あることが分かった。
- 各都市が、限られた国内市場を奪い合うのではなく、自らの強みを活かし、他の都市と差別化を図りながら、「ローカルハブ」となって世界と結びついていくことで、日本が総体として成長していくことができる。



目次

地方創生において目指すべき都市像

ローカルハブが備えるべき要素

「成長可能性都市ランキング」の分析方法

「成長可能性都市ランキング」結果

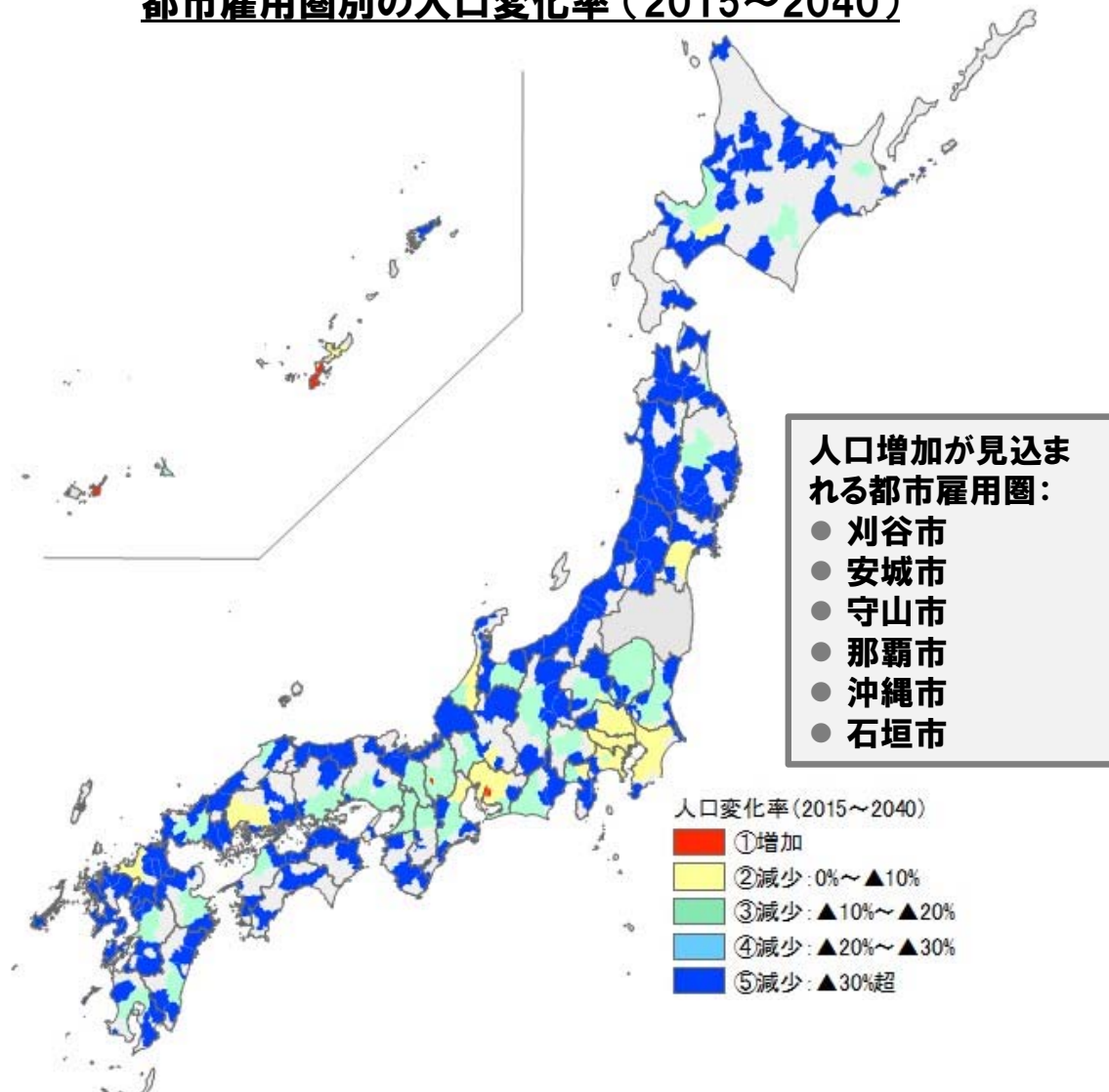
結果の考察とまとめ

地方創生において目指すべき都市像

地方創生において目指すべき都市像

今後、日本で人口が増加する都市は、大都市郊外の一部と沖縄のみ。
大部分の地域で人口は減少し、市場は縮小。特に地方部でその傾向は顕著。

都市雇用圏別の人口変化率（2015～2040）



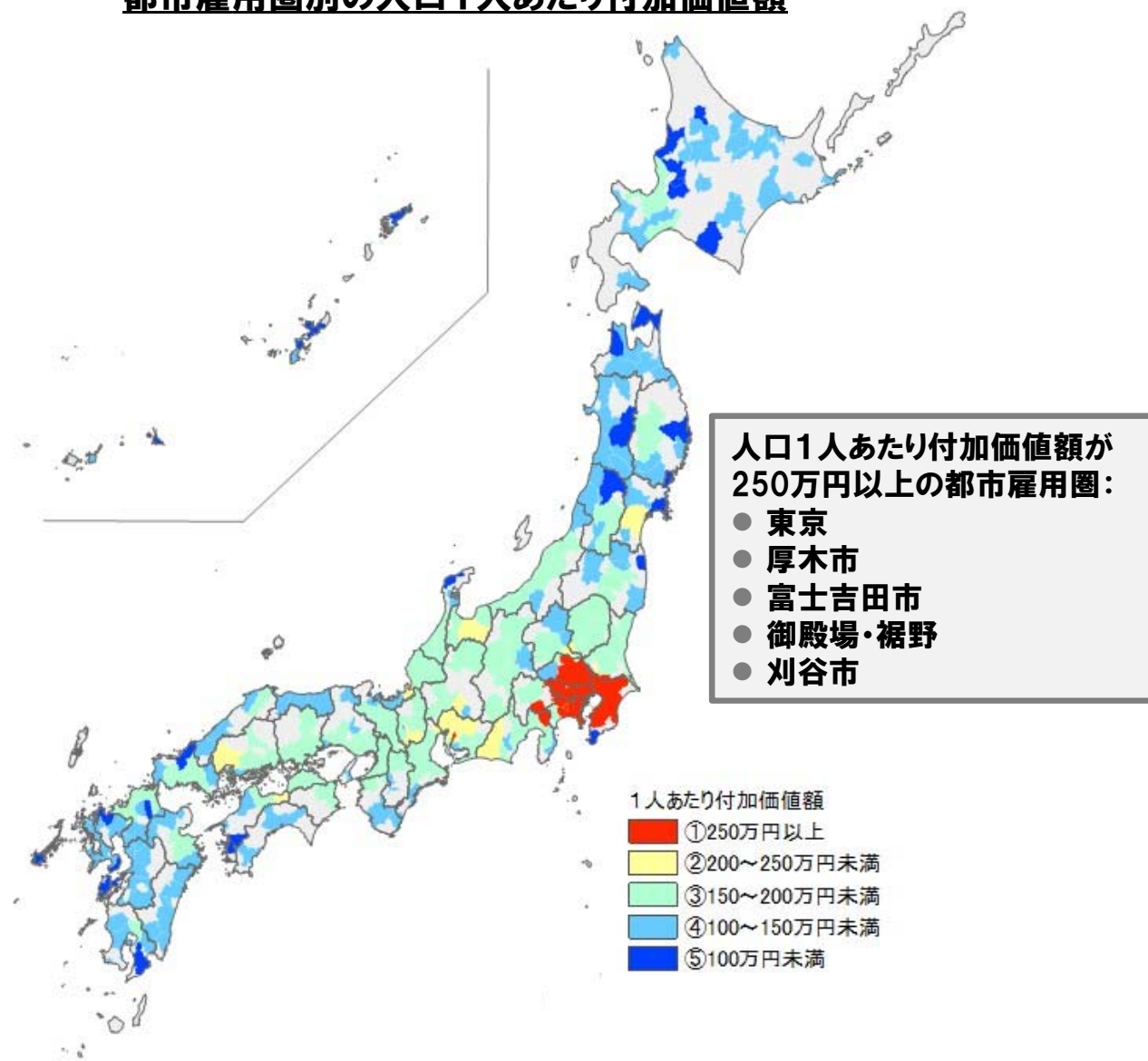
出所：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」

注1：福島県は、東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所事故の影響で、市町村別の人口動向を見通すことが困難なことから、市町村別の推計が行われていない。

注2：「都市雇用圏」とは、「日本の都市圏設定基準」（金本良嗣・徳岡一幸，2002）が提案する通勤流動に基づく都市圏の考え方。DID人口及び従業員常住人口比から中心都市を選定し、そこへの通勤率を考慮して圏域を定義。

現在、1人あたり付加価値額が高い地域は、東京と一部の企業城下町。
北海道・東北・山陰・四国・九州の多くの都市は、付加価値創出力が相対的に低い。

都市雇用圏別の人口1人あたり付加価値額

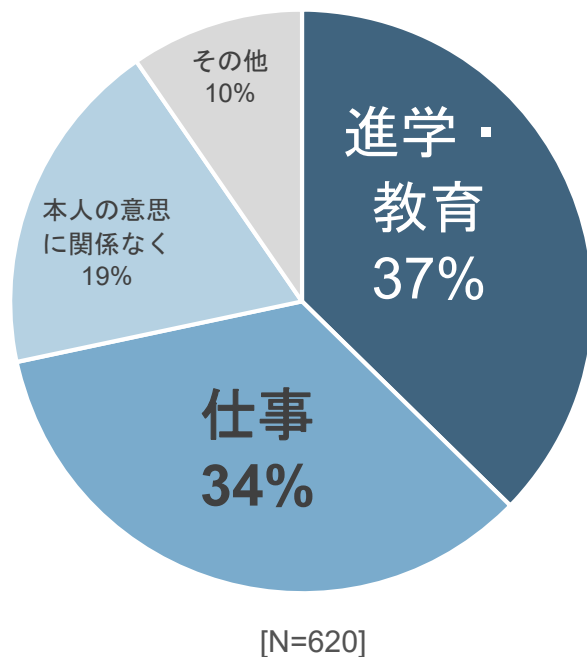


出所：総務省「平成22年国勢調査」、「平成24年経済センサス活動調査」

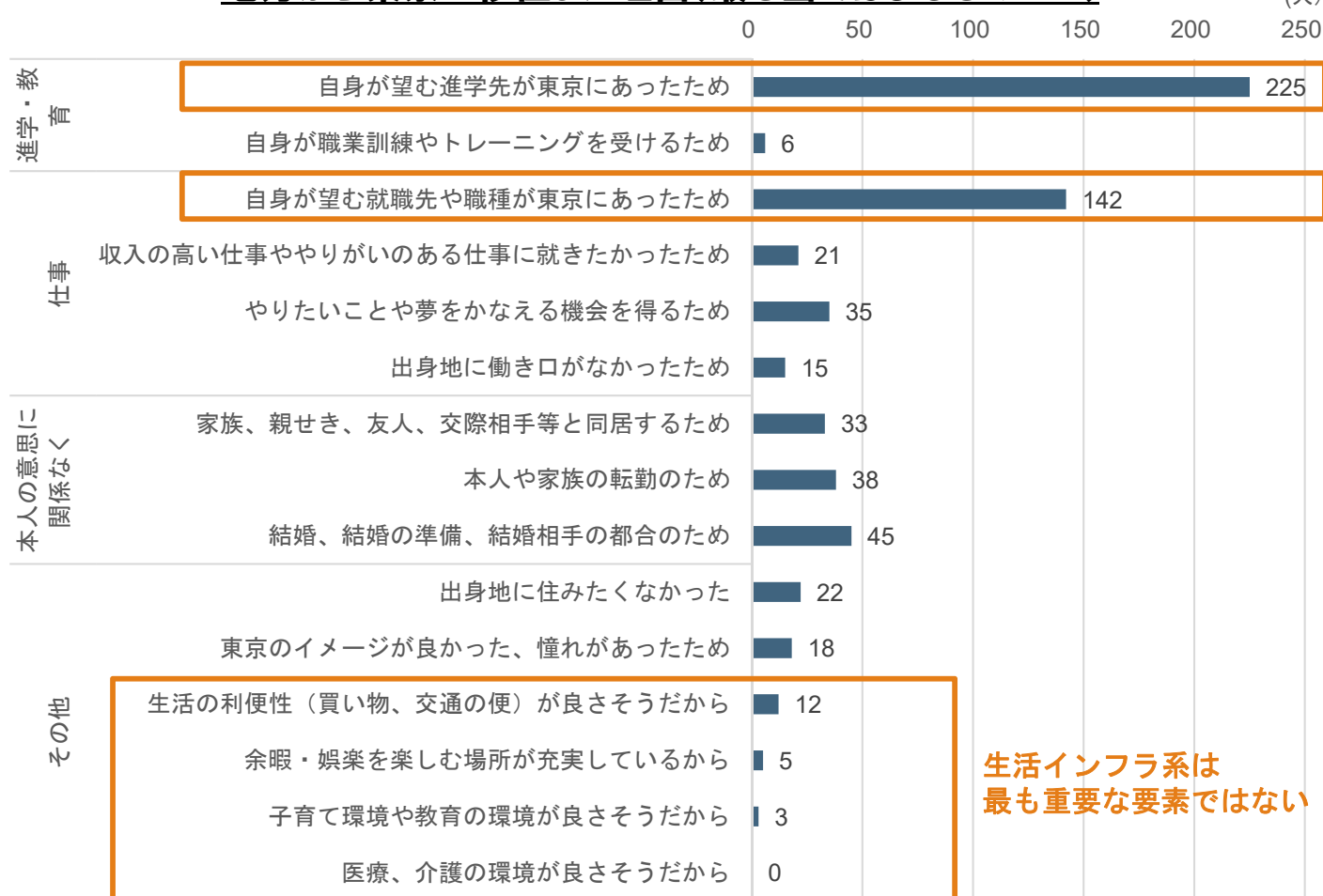
地方創生において目指すべき都市像 東京一極集中が進む一番の理由は、 人々が望む進学先、就職先が地方に不足していること。

- 地方から東京へ移住した理由では、「望む進学先か就職先が東京にあったため」という割合が高い。
- 生活利便性や子育て、介護、医療を目的に東京に移住する人は少数派。

地方から東京へ移住した理由



地方から東京へ移住した理由(最も当てはまるもの1つ)



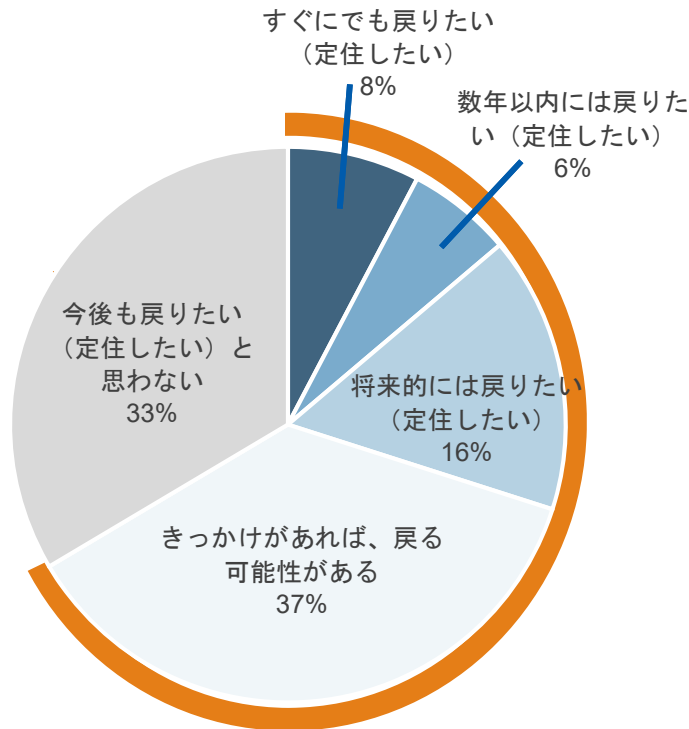
地方創生において目指すべき都市像

地方に戻る意思のある人は約3分の2と多いが、収入や待遇が維持できる仕事の有無が問題。地方創生のためには、地方に産業を創発し「しごと」を生み出していくことが重要。

- 地方出身者の67%は出身地に戻る意思があり、地方に人材が還流する可能性はある。
- しかし、出身地に戻る意思がある場合も、現在と同等以上の収入や待遇が得られる仕事があることが条件となっており、地方都市において有力な企業の立地等の確固たる産業基盤の形成が重要となる。

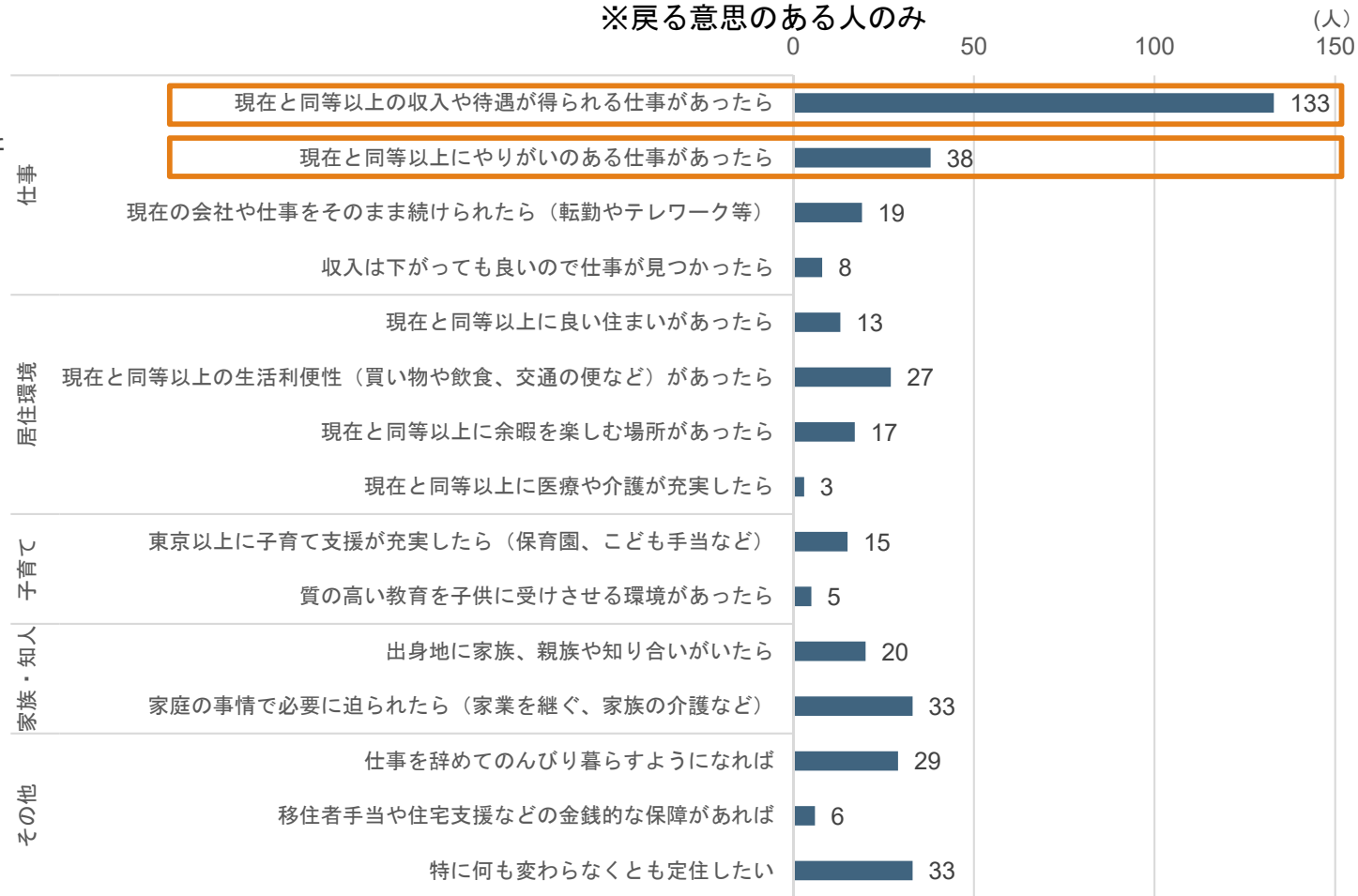
出身地に戻る(定住する)意向

出身地に戻る(定住する)ための条件(最も当てはまるもの1つ)



67%は出身地に戻る意思あり

※戻る意思のある人のみ



国の地方創生の取組は、「自ら助くる者」を対象とし、地域を主人公としている。一方、「選択と集中」の視点を持たないと、かつてのふるさと創生の延長線になるおそれがある。

このまま推移すると

<日本全体>
人口減少が止まらず、高齢化が高どまり
(高齢化率40%超)し、マイナス成長も

<中山間地域>
地域生活の維持が困難となる

<地方都市>
人口の流出が止まらず、地域経済社会
は縮小へ

<大都市(東京圏)>
高齢化が進展、生産年齢人口が減少し、
活力低下へ

まち・ひと・しごと創生総合戦略

「地方創生」が目指す姿

<日本全体>
人口減少に歯止めをかけ、人口の安定や
「若返り」も。生産性向上により経済成長

<中山間地域>
豊かな自然や地域の絆の中で、生活を継
続

<地方都市>
人口ダム機能を発揮、地域資源を活用
し、持続的に発展

<大都市(東京圏)>
安心安全な暮らしの確保、「国際都市」と
して発展

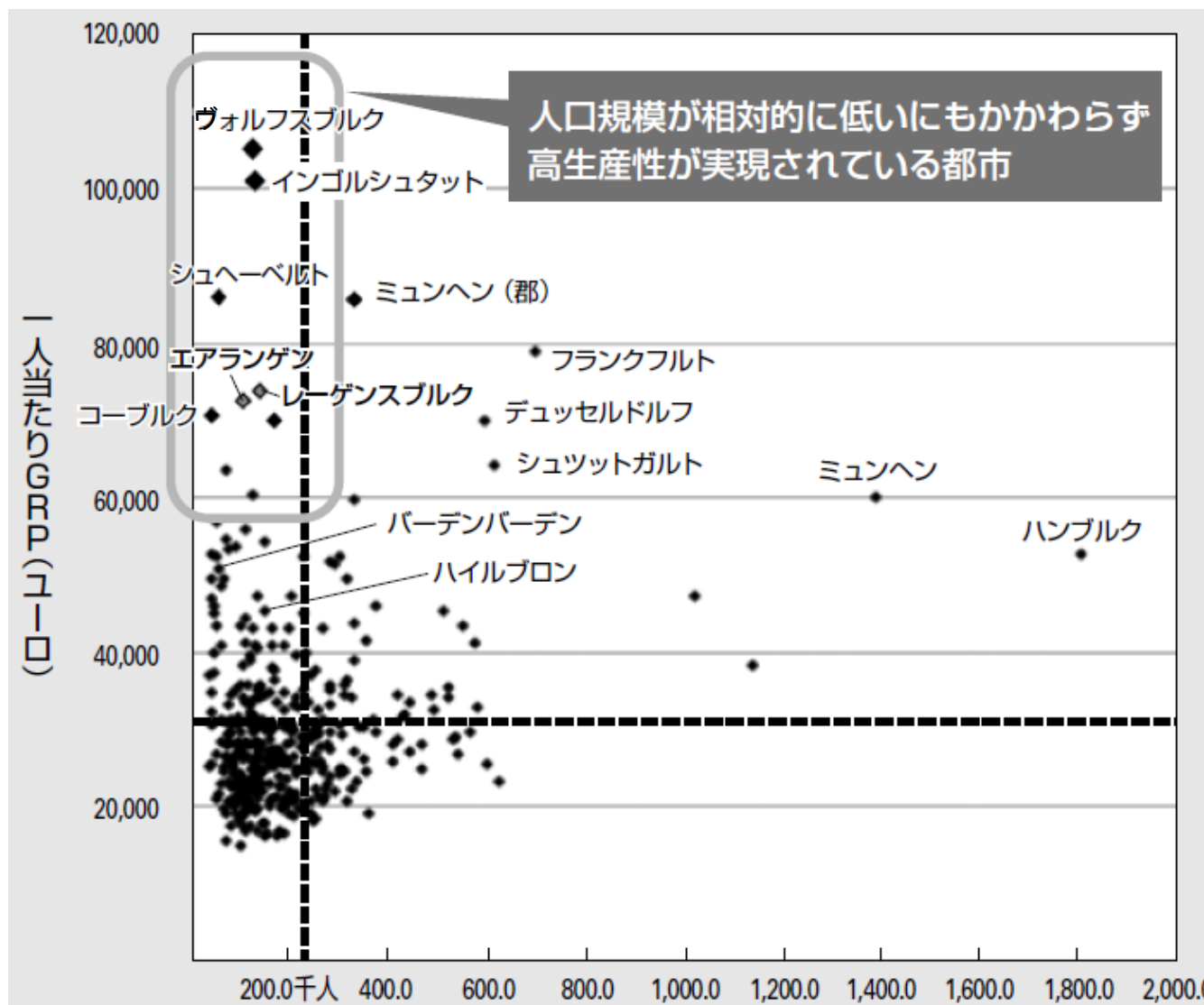
出所:内閣官房資料

- 補助金依存になるおそれ
- 地域によっては、既存の事業の追認になっていたり、事業実施が目的化し、地域の将来像を描けていないケースも
- 国としては、特定の地域に肩入れしにくい

「地方創生」に成功しているのがドイツ。

ドイツには、人口は10万人級だが、生産性で大都市を凌駕する地方都市が多数存在。

ドイツの都市の人口規模と1人当たりGRP



出所) 神尾文彦「大都市と地方の自立共生モデル ローカルハブの形成が重要に」、NRI『知的資産創造』(2015.6)
注) GRP(域内総生産: Gross Regional Product)とは、一定の地域内で産み出される粗付加価値の合計額。

ドイツで生産性の高い「内発発展型」の都市は、その地域に進出したグローバル企業と地元企業が結びついて、世界から外貨を稼ぎ、地域経済を牽引している。

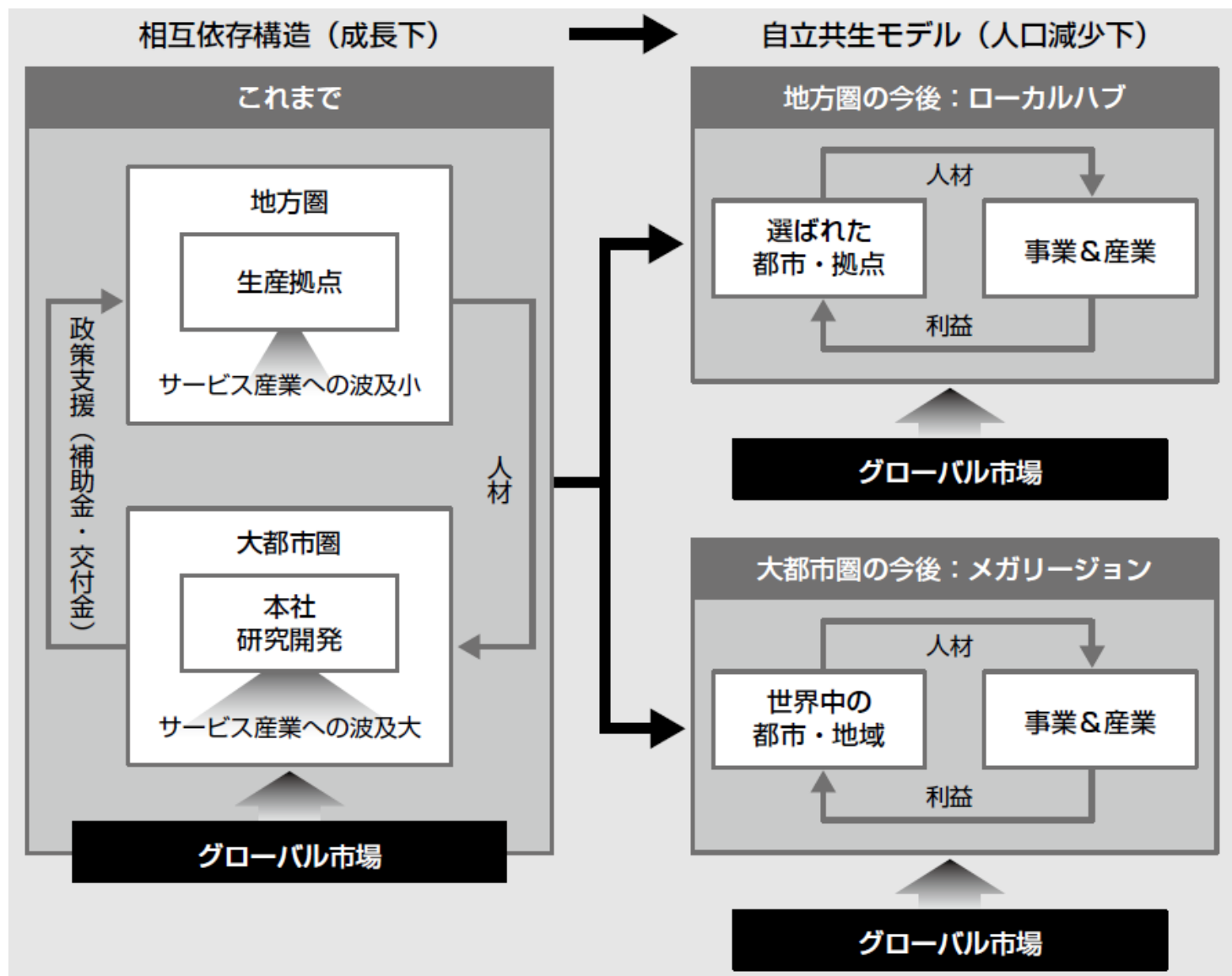
ドイツで生産性が高い都市の4類型

	概要	代表的な都市と主要産業
経済拠点型	<ul style="list-style-type: none"> ● 資源に加えて魅力的な都市機能を備え、人口が増加し、GRPが拡大し続けられる都市 	<ul style="list-style-type: none"> ● シュトゥットガルト市(自動車) ● フランクフルト市(金融) ● ハンブルク市(エネルギー・メディア) 等
企業城下町型	<ul style="list-style-type: none"> ● 実力のある企業が、そのサプライヤーとともに都市経済をけん引する都市。1人あたりGRPは極めて高いが安定性が欠如 	<ul style="list-style-type: none"> ● ヴォルフスブルク市(自動車) ● インゴルシュタット市(自動車) ● コーブス市(自動車保険) 等
内発発展型	<ul style="list-style-type: none"> ● 内部資源(大学・研究所・中堅企業)と外部活力(輸出)との連携により、高い1人あたりGRPと安定した人口維持を実現できている都市 	<ul style="list-style-type: none"> ● レーゲンスブルク市(自動車、IT、半導体等) ● エアランゲン市(医療・エネルギー等) ● ハイルブロン市(機械) 等
交流型	<ul style="list-style-type: none"> ● 国際的な観光収入がある都市 	<ul style="list-style-type: none"> ● バーデンバーデン市(温泉、娯楽、歯科医療等) 等

地方創生において目指すべき都市像

地方は従来、大都市に人材を供給し、財政支援を受ける「大都市依存型」の構造にあった。今後は、大都市から自立して地域を牽引する「ローカルハブ」を目指すべき。

将来目指すべき都市・地域のあり方



ローカルハブが備えるべき要素

ローカルハブが備えるべき要素

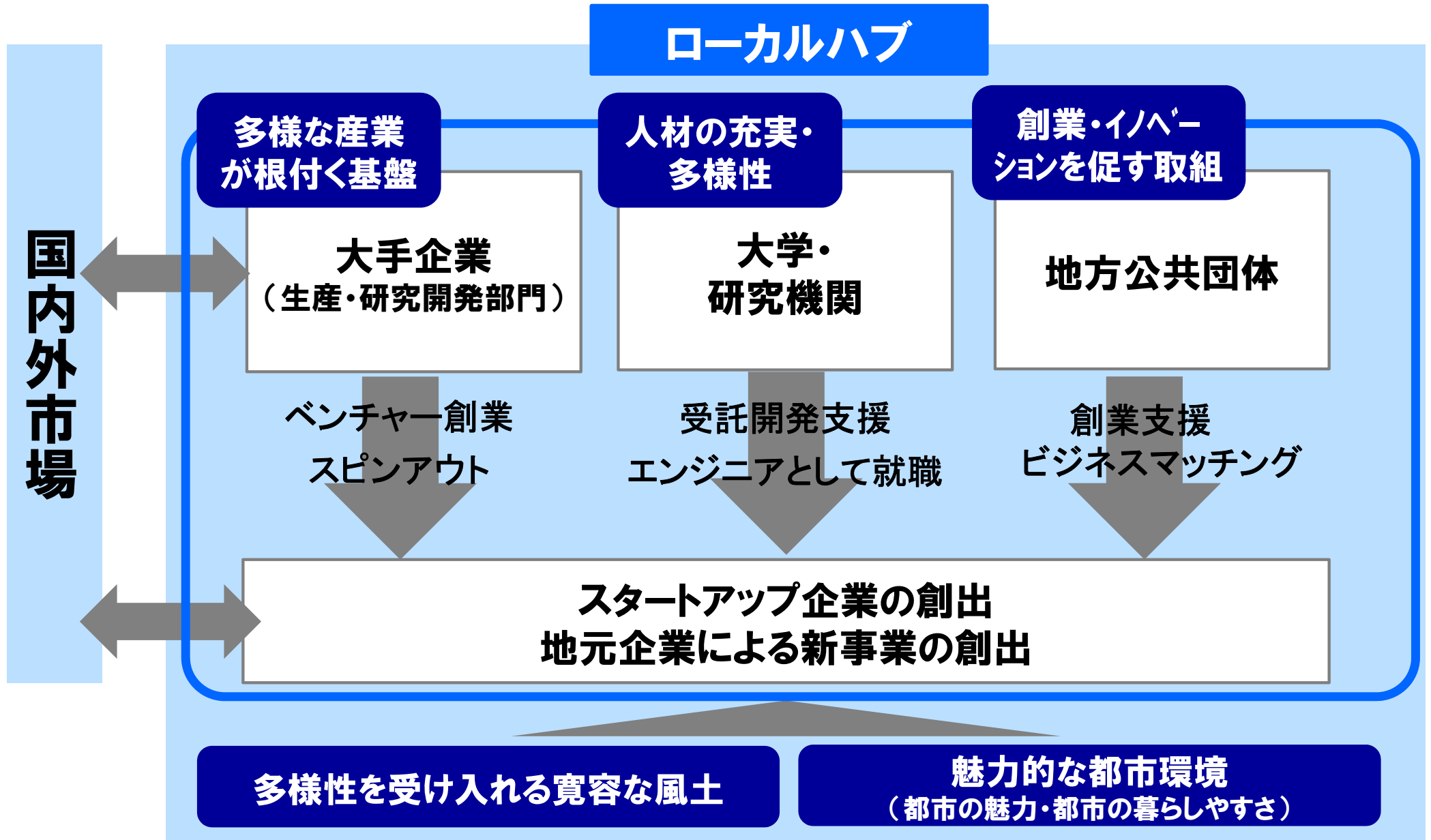
地方都市は、メガリージョン(三大都市圏)に依存せず、地域で人材・企業を育成し、世界で勝負できる商品を輸出して外貨を獲得する「ローカルハブ」を目指すべき。

	【大都市圏が目指す姿】 メガリージョン	【地方都市が目指す姿】 ローカルハブ
経済活動	グローバルビジネス活動の舞台 <ul style="list-style-type: none"> 人口に占める外国籍市民比率 20%以上(ロンドン) ※ 売上に占める外国籍企業比率 50%以上(ロンドン) ※ 	世界で勝負できる資源に立脚した経済 <ul style="list-style-type: none"> 地域に根付いたグローバルニッチ産業が主役 地元で経済構造が確立(他地域への付加価値の流出が少ない) 等
都市機能	グローバルビジネスが展開できる機能 <ul style="list-style-type: none"> 首都中枢機能 グローバル本社および支援機能 グローバル教育研究機能 グローバルM&A機能 等 	ビジネス中枢機能+ローカル支援機能 <ul style="list-style-type: none"> 国内事業の本社機能 研究開発機能、観光支援機能 専門教育機能 生活支援機能、宿泊機能、居住機能 等
産業	グローバル共働を支える新専門産業 <ul style="list-style-type: none"> グローバルビジネス仲介サービス業 グローバルベンチャーキャピタル 富裕層向けサービス業 等 	外貨獲得産業(製造業他)・サービス産業 <ul style="list-style-type: none"> 製造業・観光業・農林水産業 研究開発・ビジネス支援サービス業(国内外) 生活サービス産業(卸・小売・医療等) 等
インフラ	世界に開かれたインフラ <ul style="list-style-type: none"> 国際空港・港湾・道路・都市内交通 大容量通信インフラ 多国籍教育施設、外国人向け病院 外国人向けハイクラス住宅・生活基盤 等 	人材を確保するための良質な都市・居住インフラ <ul style="list-style-type: none"> 中心都市機能の集積・良質な住宅 圏域全体と中心都市を結ぶ公共交通・空港 等

※ : Office for National StatisticsよりNRI試算

ローカルハブが備えるべき要素

ローカルハブの条件は、「大手企業や大学・研究機関の立地」、それを核とした「ビジネス創出を促す仕組み」、優秀な人材をひきつける「寛容な風土」と「都市の魅力」の存在。



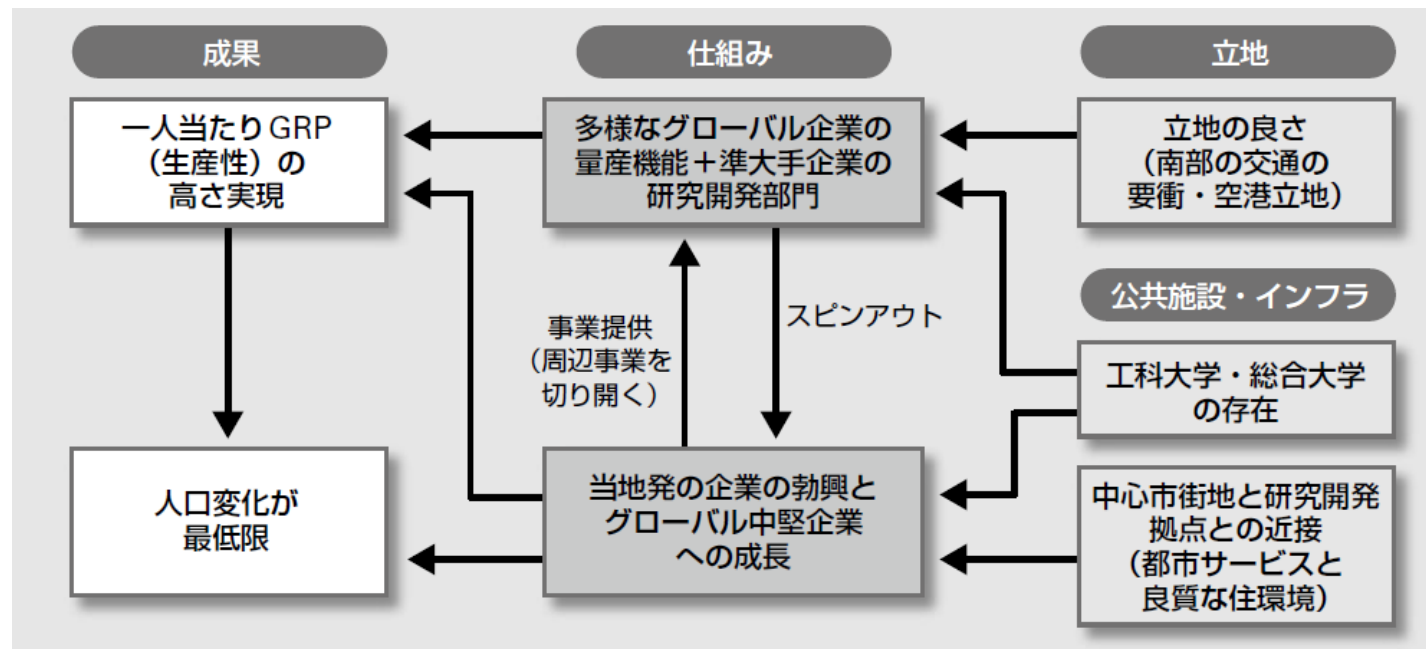
ローカルハブが備えるべき要素

ドイツ有数の「ローカルハブ」レーゲンスブルク市は、大手企業と中堅企業との共存が最大の成功要因。

レーゲンスブルク(ドイツ)

- ミュンヘンとニュルンベルクの間に位置する人口12.7万人（都市圏60万人）の地方都市。ミュンヘン、ニュルンベルクとは独立した都市圏となっている。1人あたりGRPは国内第6位。
- 自動車を中心に、半導体・電機・産業機械・高度IT・制御・センサー等の企業が集積。輸出比率60%以上。
- BMWと連携し、「生産拠点」型ではなく「研究開発」型の企業城下町を目指す。部品を供給するサプライヤーが研究開発拠点を置くようになり、そこからスピナウトした人材が同地で創業する流れが生まれている。

レーゲンスブルク市が「ローカルハブ」として成功した要因



出所) 神尾文彦「大都市と地方の自立共生モデル ローカルハブの形成が重要に」(2015.6)

レーゲンスブルク市に拠点を置く企業



出所) City of Regensburg, Economic Development

ローカルハブが備えるべき要素

大手企業がローカルハブに立地する理由は、ローカルハブの持つ資源(良質な人材、先端的な研究開発成果等)を活用し、事業の競争力を高められること。

シーメンスの拠点配置構造

	拠点	機能	立地都市	
リージョン メガ	グローバル本社	戦略策定、資金調達、人的資源、コーポレートR&D	ミュンヘン市	
	ローカル ハブ	事業部門本社 (医療・都市・エネルギー)	人事・管理、R&D、基幹製品生産 等	エアランゲン市
		事業部門本社 (風力発電)	人事・管理、R&D 等	ハンブルグ市
		研究開発・生産部門 (機械製造)	基幹製品生産 等	レーゲンスブルグ市

出所) Jahresabschluss der Siemens AG 2013、
シーメンス各グループ会社ホームページ等より作成

ローカルハブに立地するメリット

大学・研究機関と連携し、最先端の研究開発成果や研究人材を獲得できる

良質な人材を適正なコストで採用できる
(外国人・女性・高齢者の活用)

事業シーズを有した事業パートナー(企業)との連携の可能性が高まる

コンパクトで良質な都市・住宅インフラを活用できる

ローカルハブが備えるべき要素

アメリカのオースティンやシリコンバレーも、大学や地元の大企業が基盤となって、スタートアップが創出されるエコシステムが機能しており、「ローカルハブ」となっている。

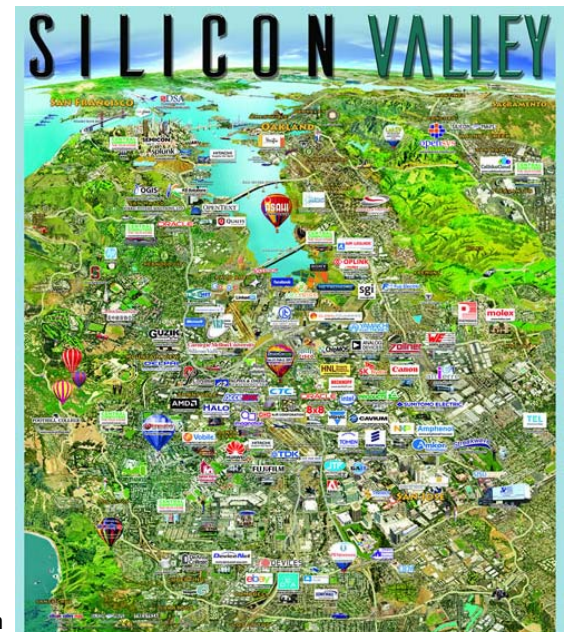
オースティン

- 1970年代、テキサス大学オースティン校を中心に、産学官連携による企業誘致・クラスター形成の取組を開始。
- 1980年代、ナショナルプロジェクトを誘致し、コンピュータ・半導体のハイテクエンジニアが集まるようになったのを機に、産学官インキュベータ組織が核となり、ベンチャー設立が活発化。
- オースティンに立地する大企業（IBM, Dell, テキサス・インスツルメンツ）からのスピンオフ（Tivoli等）も活発化。
- 大学・官公庁の街から、ハイテク産業の街に変貌。民間のベンチャーキャピタル、アクセラレータが活発に活動し、新たな企業や技術を生み出すエコシステムが形成されている。
- 世界中から20万人が訪れる全米最大のビジネスイベント「サウスバイサウスウェスト」（SXSW）も開催される。



シリコンバレー

- 1938年のヒューレット・パカード創業以降、“PC・半導体産業⇒インターネット関連産業⇒モバイルビジネス⇒ソーシャルメディア”と産業構造の転換を果たしつつ、常にIT産業の中心となってきた。
- 企業の新陳代謝が激しく、シリアルアントレプレナー（2回目以上の起業家）が素人起業家と一緒に起業するなどして裾野が拡大。
- 大企業からのスピンオフも多い。大企業は、優秀な人材を輩出したり、ベンチャーに投資・買収を行うなど、ベンチャー創出に不可欠な存在。
- 創業者の3割は移民。スタンフォード大学・カリフォルニア州立大学等の留学生による創業も盛ん。出身国とのつながりを維持しつつ、国境を越えたハイテク企業を創出している。



出所) Silicon Valley Mapウェブサイト
<http://www.siliconvalleymap.com/gallery.htm>

ローカルハブが備えるべき要素

新たな産業を創出するためには、クリエイティブな人材が住み、働きたいと思えるような魅力的な都市づくりが必要。その際の重要な視点が「都市の寛容度・多様性」。

- リチャード・フロリダは、寛容度の高い都市ほど、クリエイティブクラスの集積度、ハイテク産業の集積度、イノベーションが生まれる確率が高いこと、すなわち、マイノリティに対する寛容性と経済成長との間に強い相関があることを実証。

リチャード・フロリダによるクリエイティブ都市論

“クリエイティブクラス(創造階級)”

新しいアイデア、技術、コンテンツを創造することができる人材

- 「スーパークリエイティブコア」(科学者、エンジニア、建築家、デザイナー、アーティスト等)
- 「クリエイティブプロフェッショナル」(ビジネス・IT・金融・医療・法律等の専門家)

こうした人材は「寛容度の高い都市」に引きつけられる

“寛容度の高い都市”

よそ者を排除せず、多様な文化や価値感を受け入れる寛容性に富んだ都市

- 「**ゲイ指数**」(人口に占めるゲイ人口の割合)
- 「**ボヘミアン指数**」(人口に占める作家、デザイナー、ミュージシャン、俳優、アーティスト等の割合)
- 「**メルティングポット指数**」(人口に占める外国生まれ人口の割合)

外国生まれの起業人材：

グーグル：セルゲイ・ブリン (ロシア)

ホットメール：サビール・バティア (インド)

サンマイクロシステムズ：ピナド・コースラ (インド)

こうした人材の誘致に成功した都市が新たな産業を生み、経済的にも発展

実際に、ポートランドやシアトルは、生活の質の高さや自由な雰囲気にはかれて若い優秀な人材が集まり、それが企業集積を生んでいる。人に選ばれるまちが企業もひきつける。

ポートランド

- リノベーション型の再開発、車無しで移動できるコンパクトなまちづくり、環境にやさしいまちづくりを進めた結果、様々な都市ランキングで、「全米で最も住みたいまち」「最も環境にやさしい街」として評価。
- 「仕事のある場所に住む」のではなく、「住みたい場所で仕事を見つける」志向が強いミレニアル世代をひきつけ、若い世代を中心に多くの移住者を生んでいる。「35歳以下が最も暮らしやすい都市」で第1位になっている。
- 法人実効税率が低く、消費税も無いことから、大企業・外国企業も多数立地。ナイキ本社、インテルの全米最大の製造拠点の他、ソフトウェア系企業（グーグル、マイクロソフト、セールスフォース・ドットコムなど）もオフィスを設置している。



シアトル

- 1980年代、Microsoftがアルバカーキから移転。
- 1990年代に入り、Amazonが創業したり、Microsoftから多数のスピンオフが生まれるなど、ソフトウェア産業が急成長。
- シアトル市は、ダウンタウンを活性化したり、文化・芸術に力を入れるなど、生活の質を高めるまちづくりを推進。自然環境やライフスタイルを重視する若いクリエイティブ層が集まるようになり、その結果、優秀なエンジニアを確保できるとして、シリコンバレーに本社を置くAdobe, Google, Oracleが研究開発拠点等を設置。
- もともとはボーイングの企業城下町だったが、現在ではソフトウェア産業の一大集積地に変貌。さらに、ソフトウェア産業と関連の深いゲーム産業、製薬・生命科学産業等も集積。
- スターバックスコーヒー発祥の地としても有名。



「成長可能性都市ランキング」の分析方法

「成長可能性都市ランキング」の分析方法

ランキングを作成した目的は、国内都市の産業創発力の現状及び将来のポテンシャルを可視化し、「ローカルハブ」になりうるポテンシャルを持った都市を浮かび上がらせること。

■ ランキングの特徴

- 現在の実績だけでなく、将来のポテンシャルも評価
- 統計データだけでなく、各都市の住民を対象とするウェブアンケートを実施し、情緒的な要素（他者への寛容度等）を指標化

■ ランキングの活用方法

- 各都市の「強み」「弱み」や特徴（あらゆる指標が全体的に良い“秀才”型の都市か、何かの指標が突出して優れている“天才”型の都市か、等）を可視化
- 地方都市がローカルハブになっていくために、「何が足りないのか」「今後何をやっていくべきか」を提示
- 国内外の投資家に対し、投資するに値する都市かどうか、産業が定着・発展する土壤があるかどうかを提示

分析対象とした100都市

都市雇用圏の人口規模及びウェブアンケートの回収可能性を考慮して100都市を選定。（なお、東京は1都3県にまたがる都市雇用圏となっているが、各県を代表する都市として横浜市・千葉市・さいたま市を追加した。）

北海道	札幌市	栃木県	栃木市	静岡県	浜松市	岡山県	岡山市
	函館市		小山市		沼津市		広島県
	旭川市	群馬県	前橋市	愛知県	名古屋市	呉市	
	釧路市		高崎市		豊橋市	福山市	
	帯広市	伊勢崎市	岡崎市	東広島市			
	北見市	太田市	山口県	下関市			
苫小牧市	さいたま市	宇部市					
青森県	青森市	千歳市	千葉県	刈谷市	徳島県	徳島市	
	弘前市	千葉市		豊田市		香川県	高松市
	八戸市	東京都	東京特別区	安城市	愛媛県		松山市
岩手県	盛岡市	神奈川県	横浜市	三重県		津市	今治市
	宮城県		仙台市		小田原市	四日市市	高知県
石巻市	新潟県	新潟市	滋賀県	大津市	福岡県	北九州市	
秋田県		秋田市		長岡市		京都府	京都市
	山形県	山形市	上越市	大阪府	大阪市		久留米市
福島県	福島市	富山県	富山市		兵庫県	神戸市	佐賀県
	会津若松市	石川県	金沢市	姫路市		長崎県	
	郡山市		福井県		福井市		奈良県
	いわき市	山梨県	甲府市	和歌山県	和歌山市	大分県	
茨城県	水戸市	長野県	長野市		鳥取県		鳥取市
	日立市	岐阜県	松本市	島根県		松江市	鹿児島県
	古河市		岐阜市		上田市	静岡県	
つくば市	大垣市	栃木県	宇都宮市	出雲市			
栃木県	宇都宮市		静岡県	静岡市			

指標算出のために実施したウェブアンケートの実施概要

- 実施時期：2017年2月
- 配信対象：各都市に居住する20～59歳の男女
- 回収数：東京は300、横浜市・名古屋市・大阪市は200、その他は100

「成長可能性都市ランキング」の分析方法

各都市の産業創発力を、A1～C2の6つの視点、131の指標を用いて評価。ビジネス環境の充実だけではなく、暮らしやすさなど働く人や起業家が幸福を感じられる環境も重視。

評価の視点		評価ポイント	主な評価指標
A. 風土 起業を促し、発展させていく風土や気質を持っているか	A1 多様性を受け入れる風土	<ul style="list-style-type: none"> 外部の人材やノウハウを受け入れる風土があるか 多様性への寛容度はあるか 	<ul style="list-style-type: none"> 移住者の数 移住相談窓口の有無 多様な人を受け入れる雰囲気 多様なライフスタイルを許容する雰囲気
	A2 創業・イノベーションを促す取組	<ul style="list-style-type: none"> 創業や研究開発活動が活発に行われているか 創業をしやすい環境をつくろうとしているか イノベーションを生み出す風土があるか 	<ul style="list-style-type: none"> スタートアップ企業の数 ニッチトップ企業の数 創業支援の政策、補助金の充実度 アート、クリエイティブ産業の企業数
B. 基盤 ビジネスがしやすい環境があるか	B1 多様な産業が根付く基盤	<ul style="list-style-type: none"> 地域を支え、ビジネスを生み出す確固たる経済基盤・主要企業はあるか ビジネスを発展させやすい基盤があるか（ビジネスインフラ、コスト等） 	<ul style="list-style-type: none"> 地域経済を支える大企業の存在 産学官連携による研究の実施数 地価、人件費などのビジネスコスト 空港、港湾、駅などの交通アクセス
	B2 人材の充実・多様性	<ul style="list-style-type: none"> 生産年齢人口が充実しているか 人材・教育が充実しているか 海外人材の集積はあるか 	<ul style="list-style-type: none"> 生産年齢人口比率 若年層（15～34歳）の転出率 博士課程卒業者数 在留外国人数
C. 環境 人々が幸福にビジネスに取り組む環境があるか	C1 都市の暮らしやすさ	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の利便性は確保されているか 居住環境は快適か 生活コストが低廉か 	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通機関の充実 病院、小売店、飲食店の数 まちの清潔さ、静けさ 住宅価格、物価の安さ
	C2 都市の魅力	<ul style="list-style-type: none"> 様々な人が住みたいと思える都市の魅力があるか 市民の幸福度は高いか 街に活気があるか 	<ul style="list-style-type: none"> 文化財、史跡の数 地域コミュニティの絆の強さ 余暇を過ごす場所や機会の充実 日常の生活で幸福を感じる度合い

「成長可能性都市ランキング」の分析方法

「A.風土」面の評価：起業・イノベーションを生み出す風土は、外部人材の受入状況、多様性を受け入れる環境、創業の活発さ、創業を促す基盤により評価。

大項目	中項目	小項目	主な指標
A1 多様性を受け入れる風土	外部人材の受入	移住・外部人材の受入実績	<ul style="list-style-type: none"> ● 5年前と比べた転入数 ● 地域おこし協力隊受入数 ● 地方創生インターンシップの受入有無
		移住・外部人材の受入体制	<ul style="list-style-type: none"> ● 移住相談窓口の設置の有無 ● 空き家バンク制度の有無 ● 移住奨励金・住宅補助制度の有無
	多様性への寛容度	多様なライフスタイルの許容度	<ul style="list-style-type: none"> ● 自由な雰囲気(人目を気にしないで生活できる)があるか ● 高齢になったり、障害を持って安心して暮らせる雰囲気があるか ● おひとりさまでも楽しく暮らせる雰囲気があるか
		多様な人への寛容度	<ul style="list-style-type: none"> ● よそ者を受け入れる風土があるか ● 多様な人を受け入れるか(移住者、LGBT、外国人) ● 多様な知り合いがいるか(移住者、LGBT、外国人)
A2 起業・イノベーションを促す取組	創業の活発さ	創業の実績	<ul style="list-style-type: none"> ● 新設事業所数 ● ITスタートアップ企業の新設事業所数(情報通信業の新設事業所数)
		先端企業の存在・産学連携の活発さ	<ul style="list-style-type: none"> ● 文部科学省の共同研究実績・受託実績 ● 「グローバルニッチトップ企業100選」選出企業の立地数 ● 特許出願件数
	創業を促す基盤	創業に対する自治体の積極性	<ul style="list-style-type: none"> ● 創業支援の相談窓口の有無 ● 創業支援の補助金の有無 ● 事業所の新設に対する補助金制度・優遇措置の有無
		創業を促す風土	<ul style="list-style-type: none"> ● 多様な人を受け入れるか(起業家) ● 多様な知り合いがいるか(起業家) ● 再起の可能性を感じるか
		アート・クリエイティブ産業の集積	<ul style="list-style-type: none"> ● 日常でアートとの触れ合い(美術館の訪問、アートイベント等)があるか ● アート関連職種の就業者 ● クリエイティブ産業の企業数

「成長可能性都市ランキング」の分析方法

「B.基盤」面の評価:ビジネスがしやすい環境は、産業の基盤、ビジネス環境、人口・人材の充実、海外人材の集積により評価。

大項目	中項目	小項目	主な指標
B1 多様な産業が 根付く基盤	確固たる経済 基盤・主要企業 の存在	大企業の立地	<ul style="list-style-type: none"> ● 資本金3億円以上の企業本社数 ● 資本金3億円以上企業の事業所数
		地域の経済力	<ul style="list-style-type: none"> ● 人口あたりの製造品出荷額 ● 人口1人あたりの小売業年間商品販売額
		ビジネスでの 海外とのつながり	<ul style="list-style-type: none"> ● 海外に拠点を持つ企業本社数 ● 外資系企業の立地数
	ビジネス環境の 充実	低廉なビジネスコスト	<ul style="list-style-type: none"> ● 平均地価(商業地) ● 人件費(最低賃金、給与・賞与額)
		ビジネスインフラの充実	<ul style="list-style-type: none"> ● 国際空港、港湾、新幹線駅へのアクセス時間 ● 過去10年の国際会議開催件数
		自治体の行政基盤 の安定性	<ul style="list-style-type: none"> ● 自治体の財政力指数 ● 自治体の交付税依存度(歳入に対する地方交付税の割合)
B2 人材の充実・ 多様性	人口・教育 の充実	人口・労働力の充実	<ul style="list-style-type: none"> ● 生産年齢人口比率、合計特殊出生率 ● 65歳以上の就業率
		教育・人材の充実	<ul style="list-style-type: none"> ● 大学数、高等専門学校・高等学校数 ● 博士課程卒業者数、学生数
		若者・女性の活躍	<ul style="list-style-type: none"> ● 女性の有業率 ● 若年層(15~34歳)の転出率
	海外人材 の集積	外国人の活躍	<ul style="list-style-type: none"> ● 在留外国人数 ● ビジネス目的の訪日外国人数
		学術面の国際交流	<ul style="list-style-type: none"> ● 立地する大学の留学生数 ● スーパーグローバル選定大学の立地数

「成長可能性都市ランキング」の分析方法

「C.環境」面の評価：生活環境は、日常生活の利便性、居住の快適性、社会の成熟、社会の活力と、それらの結果としての幸福感・街への誇り・愛着により評価。

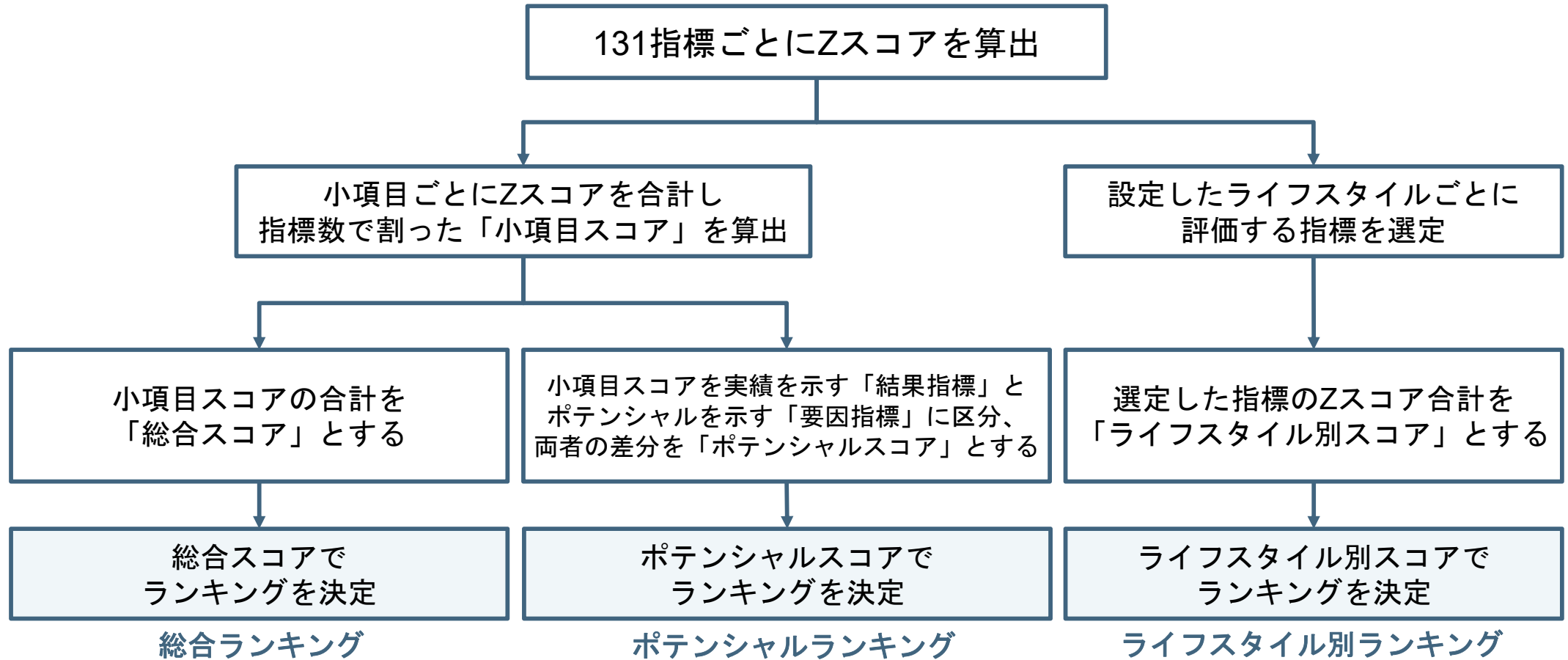
大項目	中項目	小項目	主な指標
C1 都市の暮らしやすさ	生活利便性	日常生活の利便性	<ul style="list-style-type: none"> ● 交通機関の利便性（駅、バス停の数） ● 病院・医師数 ● 小売店事業所数、飲食店事業所数 ● 生活環境の満足度（日常的な買い物や食事の利便性、医療・介護の充実、必要な場所がコンパクトにまとまっていること、車を使わないで生活できること等）
		優れた都市環境	<ul style="list-style-type: none"> ● 生活環境の満足度（まちの清潔さ、空気や水のきれいさ、まちの静けさ、街並みの美しさ、景観の良さ、治安の良さ、自然災害に対する安全性）
	居住の快適性	低廉な生活コスト	<ul style="list-style-type: none"> ● 住宅価格、家賃の安さ ● 物価の安さ（食料品、光熱費） ● 生活環境の満足度（生活コストの安さ）
		社会の成熟	<ul style="list-style-type: none"> ● 世界遺産に登録された史跡・自然・芸術・行事の数（ユネスコリスト） ● 国宝、国の重要・有形文化財の指定数 ● 歴史・伝統との触れ合いの経験、地域のお祭りへの参加の経験
C2 都市の魅力	社会の成熟	歴史・伝統との触れ合い	<ul style="list-style-type: none"> ● ボランティアや社会参加活動を行った行動者率 ● 地域コミュニティの絆の強さ ● 家族や友人と過ごす時間の有無
		地域の共助精神 コミュニティの成熟	
	社会の活力	活気のある雰囲気	<ul style="list-style-type: none"> ● 活気、わくわく感がある ● 勤務先以外の人との新たな出会いがある ● 高齢者、障害者、ベビーカーを使っている人などへの手助けの経験
		余暇の充実	<ul style="list-style-type: none"> ● 生活環境の満足度（余暇を楽しむ場所や機会の充実、公園・緑地などの憩いの空間の充実、海・山への行きやすさ、こだわりのショップ・レストランの充実、ナイトライフの充実）
	幸福感・街への誇り	幸福感、街への誇り・愛着	<ul style="list-style-type: none"> ● 日々の生活で幸福を感じる度合い ● まちへの愛着・誇り ● 他人へ居住を薦めるか

「成長可能性都市ランキング」の分析方法

指標ごとに「Zスコア」を算出し、小項目ごとに集計。

重みが均等になるようにして合計スコアを出し、ランキングを作成。

ランキング算定プロセス



$$Z_{\text{スコア}} = \frac{\text{各都市の値} - \text{平均値}}{\text{標準偏差}}$$

※平均値と等しい場合に0となり、
平均値より高い場合はプラス、低い場合はマイナスになる

「成長可能性都市ランキング」結果

「成長可能性都市ランキング」結果

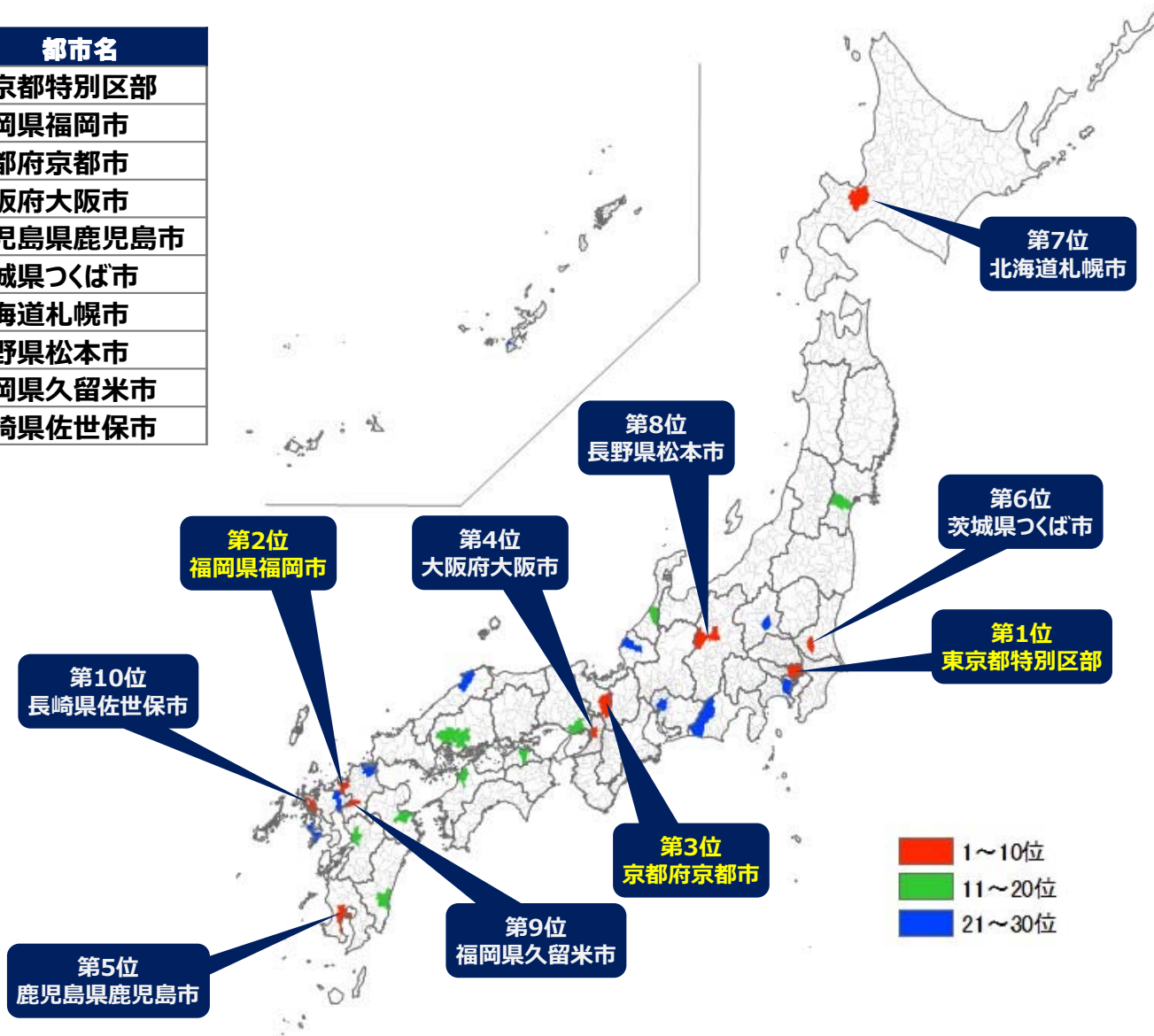
成長可能性都市ランキング 結果まとめ

※「東京」は、東京特別区部を指す。

		第1位	第2位	第3位
総合ランキング (実績及び将来のポテンシャルを含めた総合的な産業創発力)		東京	福岡市	京都市
ポテンシャルランキング (実績とポテンシャルの差分で見た“伸びしろ”)		福岡市	鹿児島市	つくば市
産業創発力の 6つの視点別 ランキング	多様性を受け入れる風土	東京	札幌市	佐世保市
	創業・イノベーションを促す取組	東京	大阪市	福岡市
	多様な産業が根付く基盤	東京	大阪市	豊田市
	人材の充実・多様性	東京	京都市	千葉市
	都市の暮らしやすさ	佐賀市	奈良市	富山市
	都市の魅力	福岡市	鹿児島市	京都市
ライフスタイル 別ランキング	移住者にやさしく、適度に自然がある環境 で仕事ができる	鹿児島市	松本市	宮崎市
	リタイア世代が余生を楽しみながら 仕事ができる	鹿児島市	福岡市	松山市
	子育てしながら働ける環境がある	松本市	前橋市	佐賀市
	起業スピリッツがあり、スモールビジネスにも 適している	東京	つくば市	福岡市

「成長可能性都市ランキング」結果 総合ランキング

順位	都市名
1	東京都特別区部
2	福岡県福岡市
3	京都府京都市
4	大阪府大阪市
5	鹿児島県鹿児島市
6	茨城県つくば市
7	北海道札幌市
8	長野県松本市
9	福岡県久留米市
10	長崎県佐世保市



第1位 東京都特別区部

- 経済基盤、創業のしやすさなどビジネス環境では全国トップで、確固たる産業基盤を持ち、さらなる成長の基礎が固まっている
- 自由に挑戦がしやすいまちの雰囲気や人材の多様性などイノベーションに向く風土を持つ
- 生活コストの高さや子育てのしにくい環境、地域の共助精神の低さが弱み。魅力的を高めるにはソフト面の強化も重要である

第2位 福岡県福岡市

- 空港、港湾、新幹線駅へのアクセスが良好で国際会議も多くビジネス環境が整っている
- 多様性に対する許容度が高く、自由で起業家精神にあふれている都市と言える。市民の幸福度が高く、街への愛着が強いのも特徴
- ビジネス環境は整っているが大企業や外資系企業の立地が少ない。アジアに近い立地を活かした国際的な産業形成が期待される

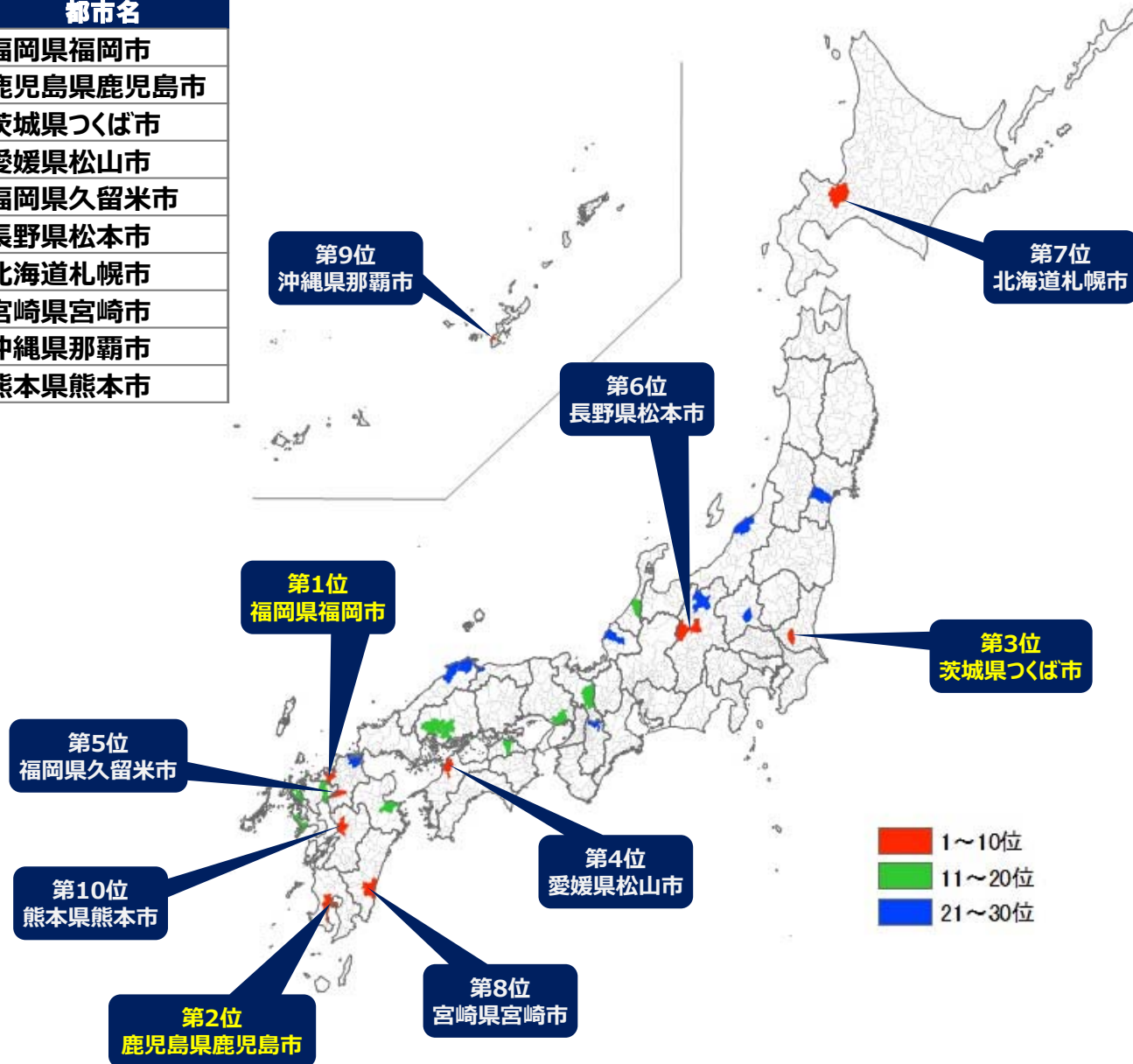
第3位 京都府京都市

- 文化財や歴史、アートとのふれあいが盛んでクリエイティブな雰囲気の都市
- 国際会議や外国人も多く世界に開かれた街
- コンパクトな都市で都市内の公共交通機関が充実している点で市民の満足度も高い
- 起業スピリッツはあるが起業数は多くない。大学が多く産学連携も盛んなため、大学発のベンチャーなど産業創発が期待される

「成長可能性都市ランキング」結果

ポテンシャルランキング ⇒ローカルハブになるポテンシャルを有した“成長可能性都市”

順位	都市名
1	福岡県福岡市
2	鹿児島県鹿児島市
3	茨城県つくば市
4	愛媛県松山市
5	福岡県久留米市
6	長野県松本市
7	北海道札幌市
8	宮崎県宮崎市
9	沖縄県那覇市
10	熊本県熊本市



第1位 福岡県福岡市

- ビジネス環境は整っているが独自の産業が少なく、産業の伸びしろが大きい
- 住民は多様性に対する寛容度が非常に高く、異質なものを受け入れ、新しいことに挑戦する気質を持っている
- イノベーションが起こりやすい風土があり将来の産業を担う企業も登場する可能性がある。一層の起業支援や産業育成が期待される

第2位 鹿児島県鹿児島市

- コミュニティの成熟、活気ある雰囲気、街への誇りなどの評価が高く、住民にとってのQOLが高いまちである。
- 外部人材の受け入れや多様性への寛容度が高く、新しいものを受け入れる風土がある。
- 一方、経済基盤や人材の集積の面では平均を下回る結果であり、ポテンシャルをビジネス創出につなげていく仕組みが必要。

第3位 茨城県つくば市

- 大学や研究機関が多く立地する特性上、博士課程を持つ専門人材や専門職研究者などビジネス高度人材は非常に多い
- 住民は新しいことに挑戦する気質を持つ人が多く、イノベーションにつながりやすい風土がある
- 企業の立地やITスタートアップ企業の実績は多いとは言えず、専門人材を活用した産業形成で国際研究都市への成長が期待される

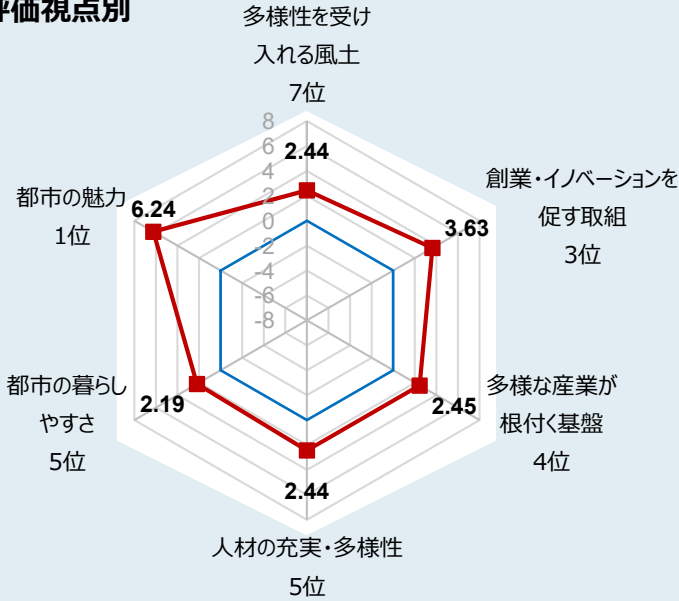
福岡県福岡市

総合ランク
2位

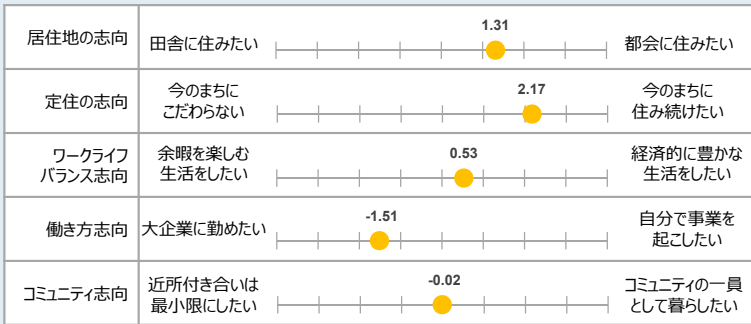
ポテンシャルランク
1位

■基礎データ(*)
 総人口 : 1,538,681 人
 人口増加率 : 5.12 %
 事業所増加率 : 7.90 %

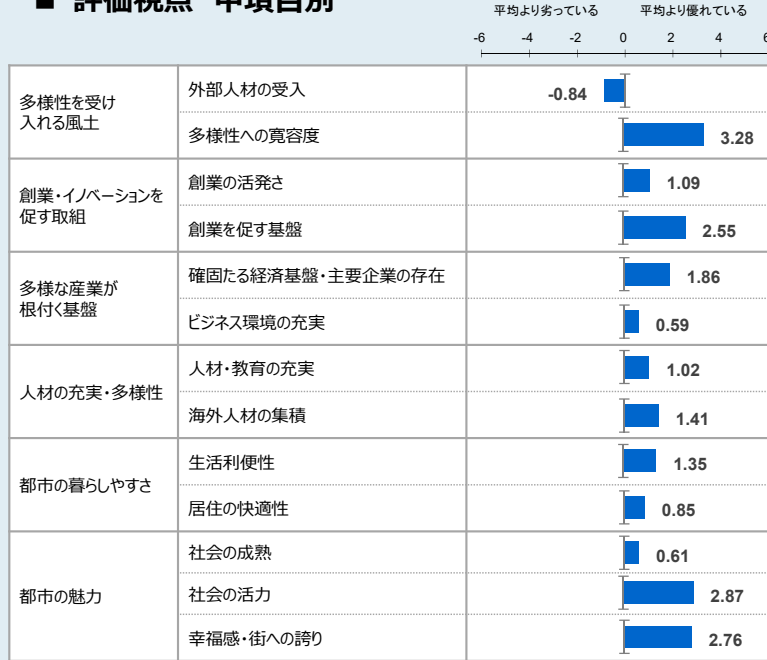
■ 評価視点別



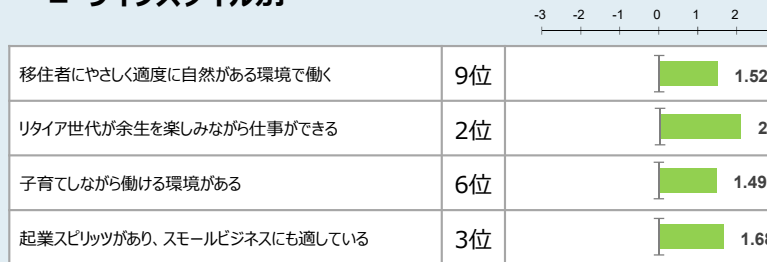
■ 個人の志向



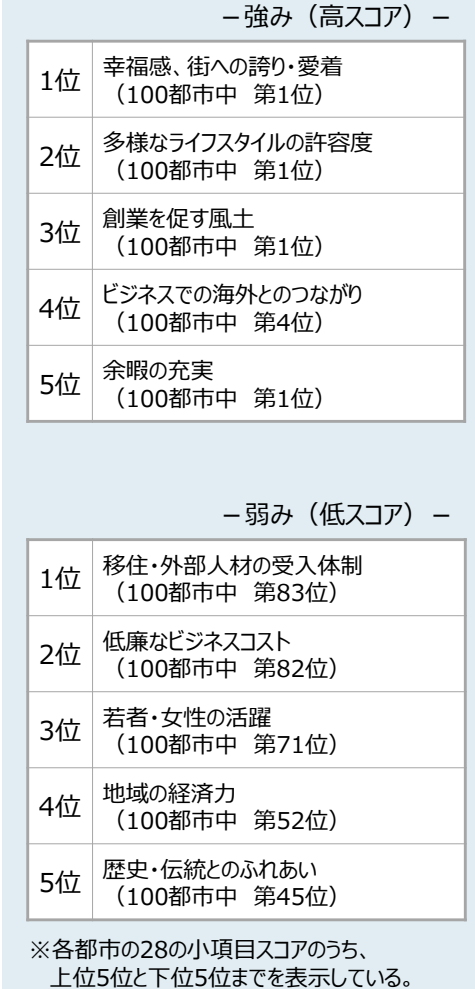
■ 評価視点 中項目別



■ ライフスタイル別



■ 都市の強み・弱み



多様性に対する許容度が高く、自由で起業家精神にあふれている都市と言える。市民の幸福度が高く、街への愛着が強いのも特徴。空港、港湾、新幹線駅へのアクセスが良好で国際会議も多くビジネス環境が整っている。一方で、環境はあるものの大企業や外資系企業の立地が少ない。ポテンシャルランクが1位であり潜在的な力を持っているので、アジアに近い立地を活かした国際的な産業形成が期待される。

鹿児島県鹿児島市

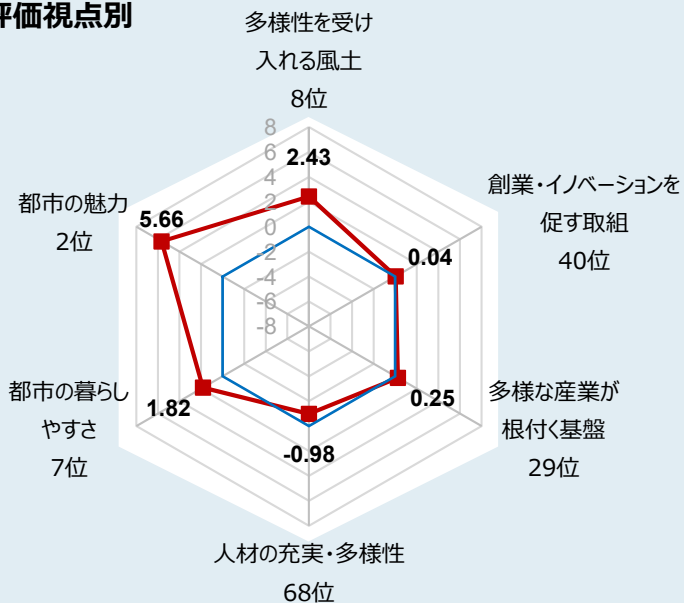
総合ランク
5位

ポテンシャルランク
2位

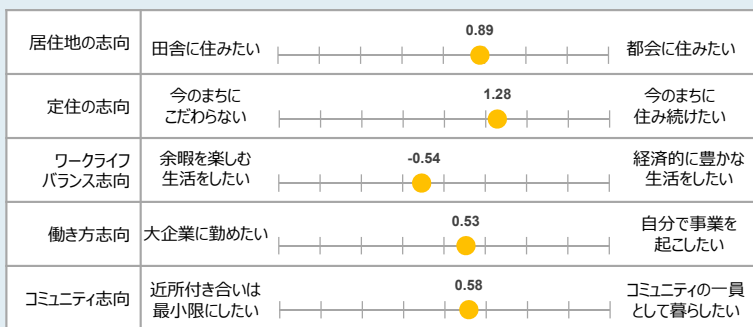
■基礎データ(*)

総人口 : 599,814 人
人口増加率 : ▲1.00 %
事業所増加率 : 2.47 %

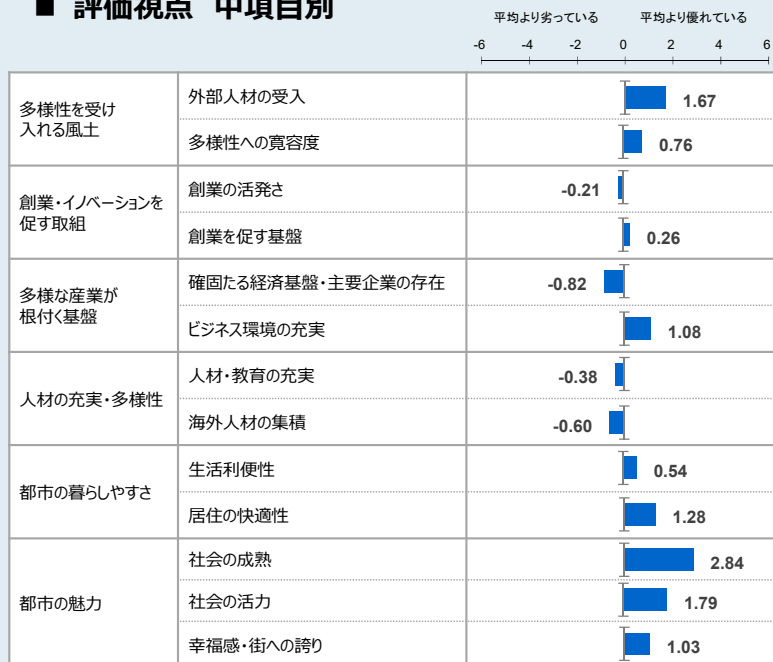
■ 評価視点別



■ 個人の志向



■ 評価視点 中項目別



■ ライフスタイル別



■ 都市の強み・弱み

－強み（高スコア）－

1位	移住・外部人材の受入実績 (100都市中 第2位)
2位	地域の共助精神・コミュニティの成熟 (100都市中 第1位)
3位	歴史・伝統とのふれあい (100都市中 第6位)
4位	良好な都市環境 (100都市中 第6位)
5位	幸福感、街への誇り・愛着 (100都市中 第11位)

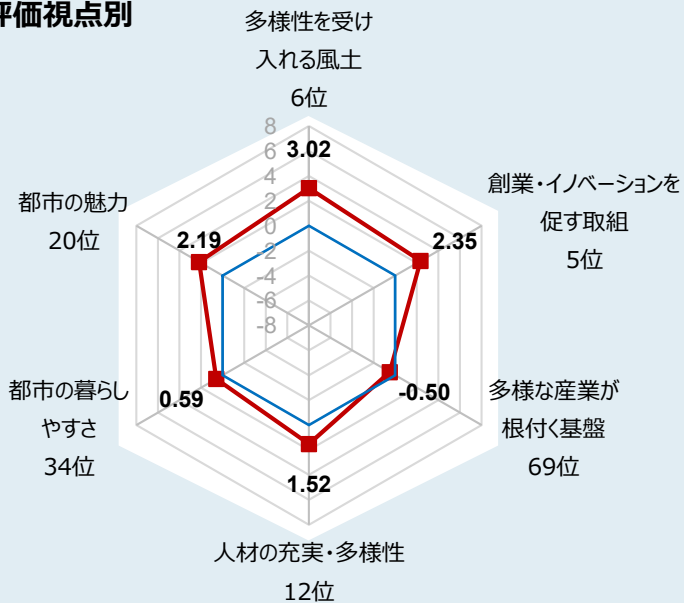
－弱み（低スコア）－

1位	地域の経済力 (100都市中 第83位)
2位	外国人の活躍 (100都市中 第86位)
3位	学術面の国際交流 (100都市中 第83位)
4位	教育・人材の充実 (100都市中 第55位)
5位	若者・女性の活躍 (100都市中 第61位)

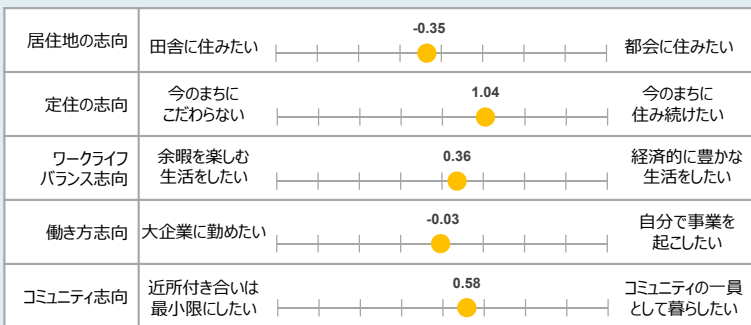
※各都市の28の小項目スコアのうち、上位5位と下位5位までを表示している。

地域の共助精神・コミュニティの成熟、活気ある雰囲気、街への誇りなどの評価が高く、住民にとってのQOLが高いまちである。また、外部人材の受け入れや多様性への寛容度でも高い評価となっている。一方、経済基盤・主要企業の存在や人材の集積の面では平均を下回る結果となっている。つまり、ポテンシャルは高いものの、それを実際のビジネスの集積に活かせていないのが現状であり、ポテンシャルをビジネスの誘致・創出につなげていく仕組みが必要といえる。

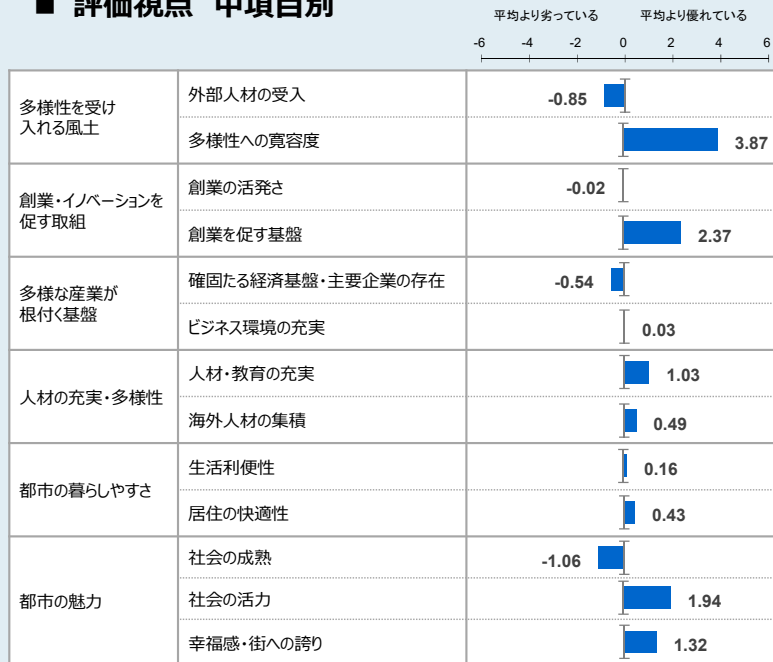
■ 評価視点別



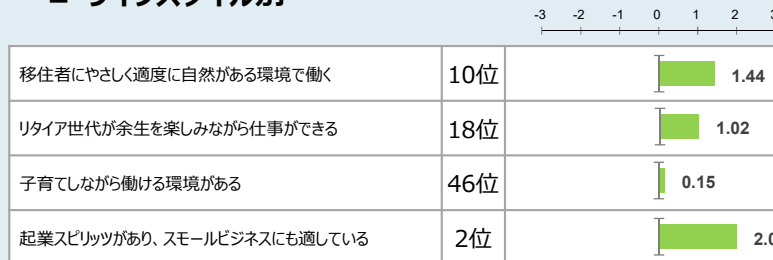
■ 個人の志向



■ 評価視点 中項目別



■ ライフスタイル別



■ 都市の強み・弱み

－強み（高スコア）－

1位	多様な人への寛容度 (100都市中 第1位)
2位	教育・人材の充実 (100都市中 第3位)
3位	多様なライフスタイルの許容度 (100都市中 第7位)
4位	幸福感、街への誇り・愛着 (100都市中 第6位)
5位	活気ある雰囲気 (100都市中 第4位)

－弱み（低スコア）－

1位	若者・女性の活躍 (100都市中 第94位)
2位	地域の共助精神・コミュニティの成熟 (100都市中 第85位)
3位	ビジネスインフラの充実 (100都市中 第92位)
4位	移住・外部人材の受入体制 (100都市中 第64位)
5位	歴史・伝統とのふれあい (100都市中 第77位)

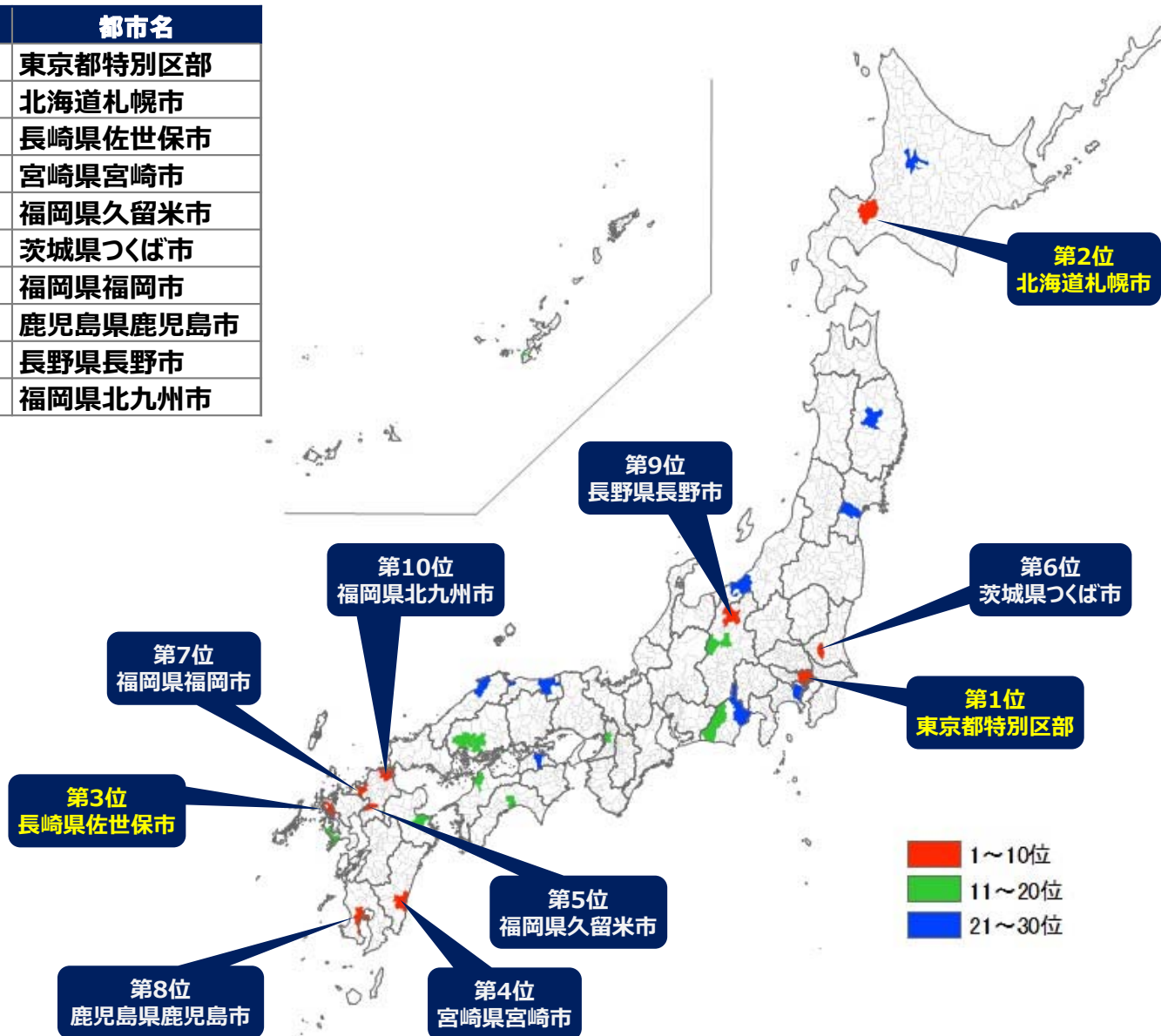
※各都市の28の小項目スコアのうち、上位5位と下位5位までを表示している。

人口あたりのビジネス高度人材の数や、外国人・移住者の知り合いがいる割合は全国第1位、外国人との出会い・触れ合いの経験、よそ者を受け入れる風土は全国第2位など、多様性に対する寛容度が高い。一方、飲食店や金融機関など生活に必要な店舗の充実度、生活コスト、地域コミュニティの絆の強さなどは低い評価となっており、生活環境の改善が課題となっている。

「成長可能性都市ランキング」結果

評価視点別ランキング: ①多様性を受け入れる風土

順位	都市名
1	東京都特別区部
2	北海道札幌市
3	長崎県佐世保市
4	宮城県宮崎市
5	福岡県久留米市
6	茨城県つくば市
7	福岡県福岡市
8	鹿児島県鹿児島市
9	長野県長野市
10	福岡県北九州市



第1位 東京都特別区部

- 他都市からの転入数が圧倒的に多く、様々な人が集めるため、人材の多様性が極めて高い
- おひとりさま、高齢者、外国人、LGBTなどあらゆる人が暮らしやすい環境がある
- それらの人と知り合いやコミュニティの一員として付き合う人も多く多様な人を受け入れ、認め合う風土がある

第2位 北海道札幌市

- 他都市からの転入数も多く、様々な人が集まる街で、多様性に対する許容度が高い
- 自由な雰囲気のある街と感じている人は東京より多く、あらゆる人が人目を気にせず生活できるという点では全国トップ
- 住民は街に活気があると感じている人が多い。東京と比べても幸福度が高く、街への愛着を感じる人が多い傾向にある

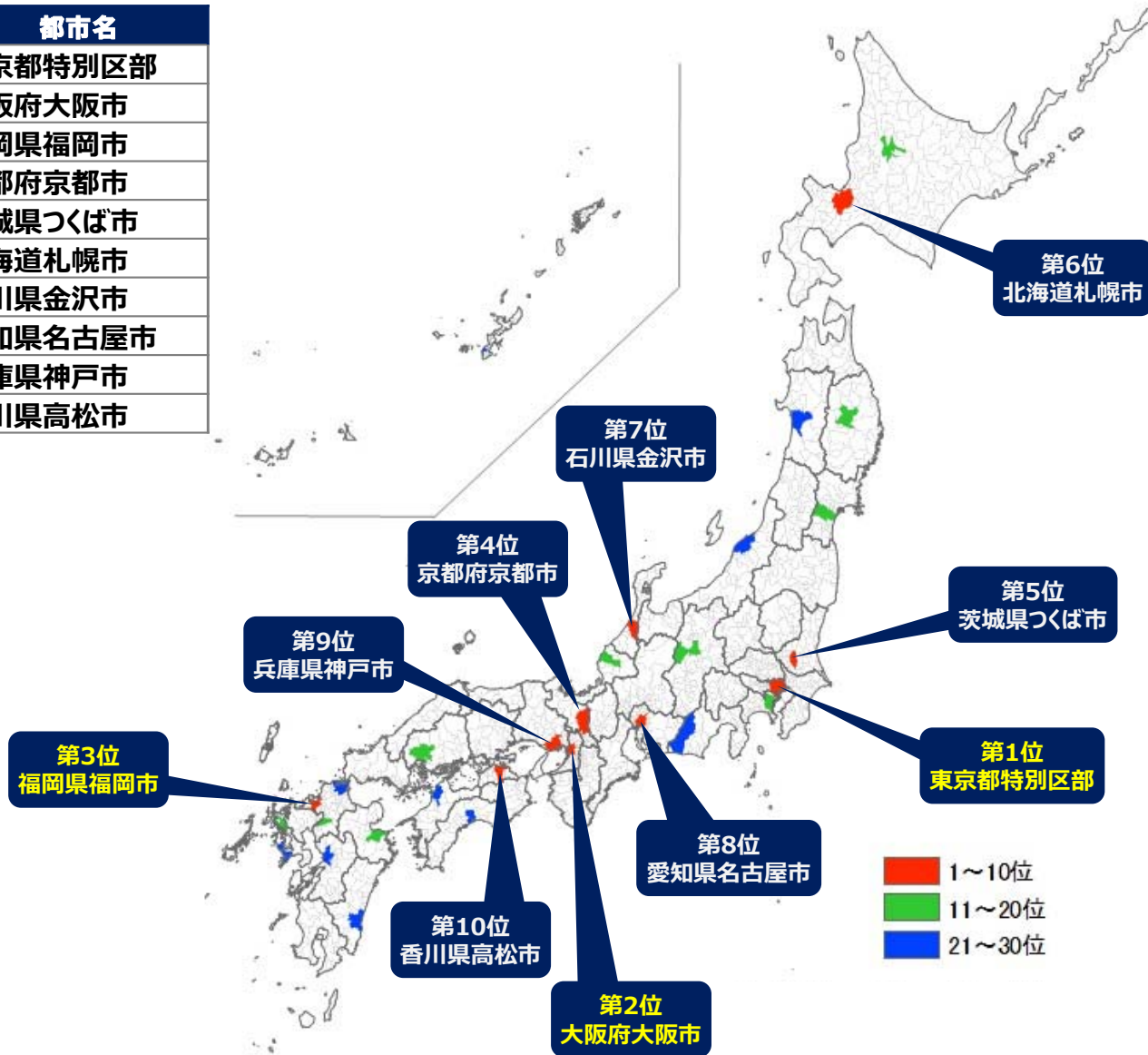
第3位 長崎県佐世保市

- 外部人材の受け入れが多く、移住者支援も積極的に行っている
- 外国人やよそ者を受け入れる風土を持っておりマイノリティに対する寛容度も高い
- 米軍基地が立地する特性から、外国人が知り合いにいる人、外国人が街の発展に貢献していると考える人が他都市より多い

「成長可能性都市ランキング」結果

評価視点別ランキング: ②創業・イノベーションを促す取組

順位	都市名
1	東京都特別区部
2	大阪府大阪市
3	福岡県福岡市
4	京都府京都市
5	茨城県つくば市
6	北海道札幌市
7	石川県金沢市
8	愛知県名古屋市
9	兵庫県神戸市
10	香川県高松市



第1位 東京都特別区部

- 創業が非常に活発で、開業数、ITスタートアップ企業数、特許出願数で全国トップ
- 創業を支援する自治体の取り組みや相談窓口、補助金も充実している。また多様な人材が集まるため、起業には適した環境がある
- イノベーションにつながるアート・クリエイティブ関連の産業や従業員、アーティストも多く、イノベーションを生み出す風土があると言える

第2位 大阪府大阪市

- 開業数も東京に次いで多く、ITスタートアップ企業も多数存在する
- グローバルニッチトップ企業の数が多く「尖った」分野で活躍する企業が存在する
- クリエイティブ産業の活発さが特徴で、アート関連の仕事に就く住民も多い
- 創業支援では他都市と大きな差はなく起業家にとって魅力的な街となることが期待される

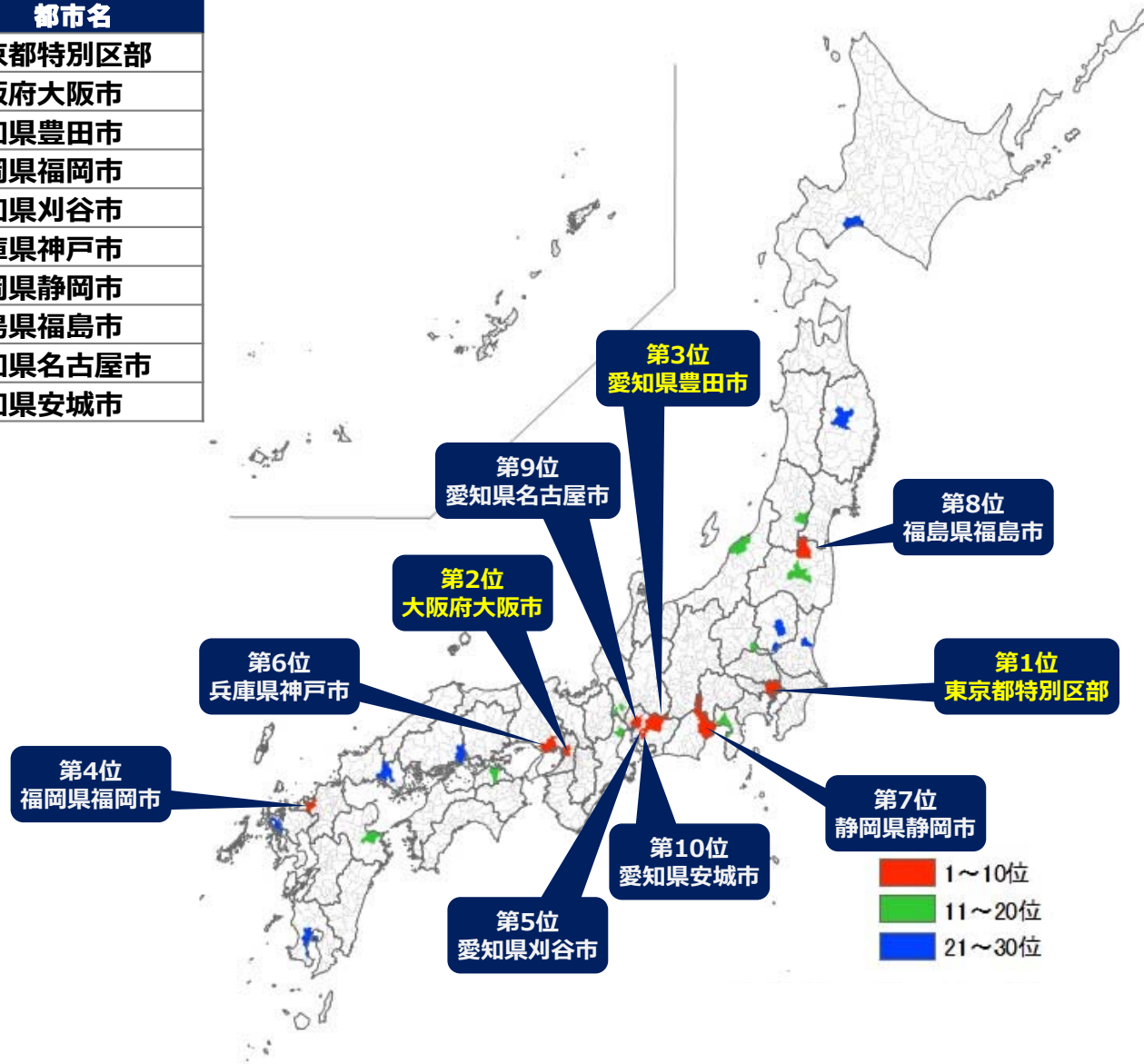
第3位 福岡県福岡市

- 自治体の創業支援が充実しており、住民にも自分で事業を立ち上げたいと考える人が多い
- 街に再起の可能性（仕事を見つけたり、起業するチャンスがある）と考える住民が多く、挑戦していく雰囲気がある
- 創業の実績が多いとは言えず伸びしろが大きい。産学連携の研究が活発なため、大学発のベンチャーなどの産業創発が期待される

「成長可能性都市ランキング」結果

評価視点別ランキング: ③多様な産業が根付く基盤

順位	都市名
1	東京都特別区部
2	大阪府大阪市
3	愛知県豊田市
4	福岡県福岡市
5	愛知県刈谷市
6	兵庫県神戸市
7	静岡県静岡市
8	福島県福島市
9	愛知県名古屋市
10	愛知県安城市



第1位 東京都特別区部

- 大企業の立地や外資系企業数が多く、確固たる産業基盤が存在する
- 空港、港湾、新幹線駅などビジネスに必要な交通アクセスも良好
- 国際会議が可能な場所も多く、実績も豊富
- しかし、地価や賃料、人件費が他都市に比べて非常に高く、ビジネスコストの面で大きな弱みがある

第2位 大阪府大阪市

- 大企業の立地や小売の販売額が多く、十分な産業基盤が存在する
- 地価や賃料などのビジネスコストが東京に比べて割安である点も有利にはたっている
- 空港、港湾、新幹線駅などの交通インフラ、国際会議場などビジネスインフラは充実している
- 外資系企業が少ないため、海外に対して魅力的な都市であることを伝えることが課題と言える

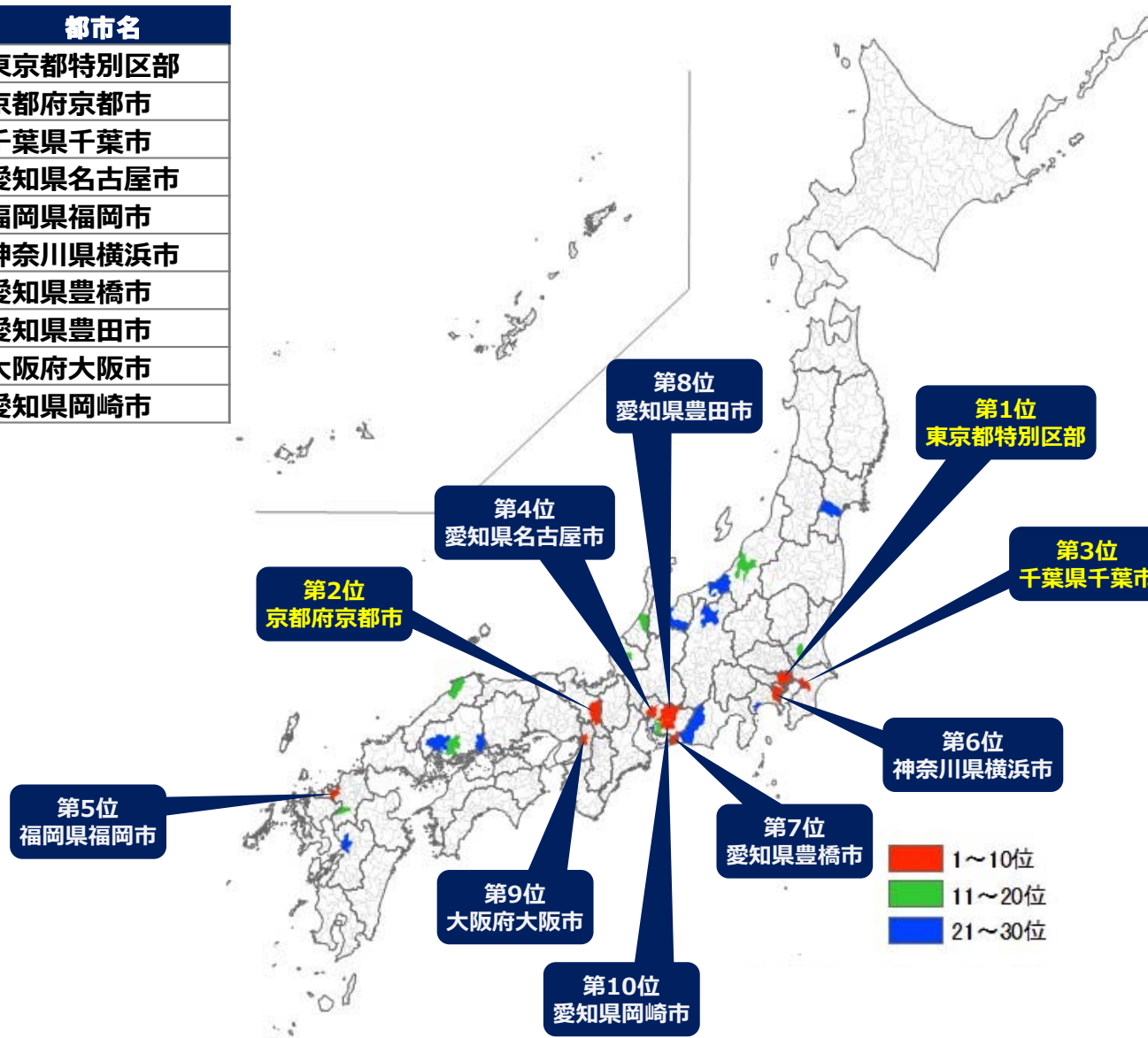
第3位 愛知県豊田市

- 製造業の出荷額が突出して多く、全国トップ
- 自動車製造業を中心に多数の産業が立地し産業基盤を形成している
- 大都市に比べて地価などビジネスコストが安い点や、物流インフラが充実している点が強み
- 一人あたりの小売業の販売額が他都市と比べて低く店舗数も少ない。日常生活の利便性に満足している住民が少ない点に課題がある

「成長可能性都市ランキング」結果

評価視点別ランキング: ④人材の充実・多様性

順位	都市名
1	東京都特別区部
2	京都府京都市
3	千葉県千葉市
4	愛知県名古屋市
5	福岡県福岡市
6	神奈川県横浜市
7	愛知県豊橋市
8	愛知県豊田市
9	大阪府大阪市
10	愛知県岡崎市



第1位 東京都特別区部

- 大学数が多く、学生数や専門性を持った人材が豊富に存在する
- 在留外国人、留学生数、ビジネス目的で来訪する外国人ビジネスパーソン数は全国トップで、最も海外人材の集積する都市である
- 若年層の転入者が多いため生産年齢人口も多い。しかし出生率は全国ワーストで、女性の有業率も低く、仕事と子育ての両立が課題

第2位 京都府京都市

- 大学が集積しており、学生数や博士課程卒業業者数が多い。教育環境が充実している
- 留学生を中心に外国人が多く、世界に開かれた大学が立地している
- 専門職研究者などのビジネス高度人材の数は他都市と比べて差がなく、大学卒業後に他都市に流出している可能性がある
- 若年層が他都市への流出する傾向にある

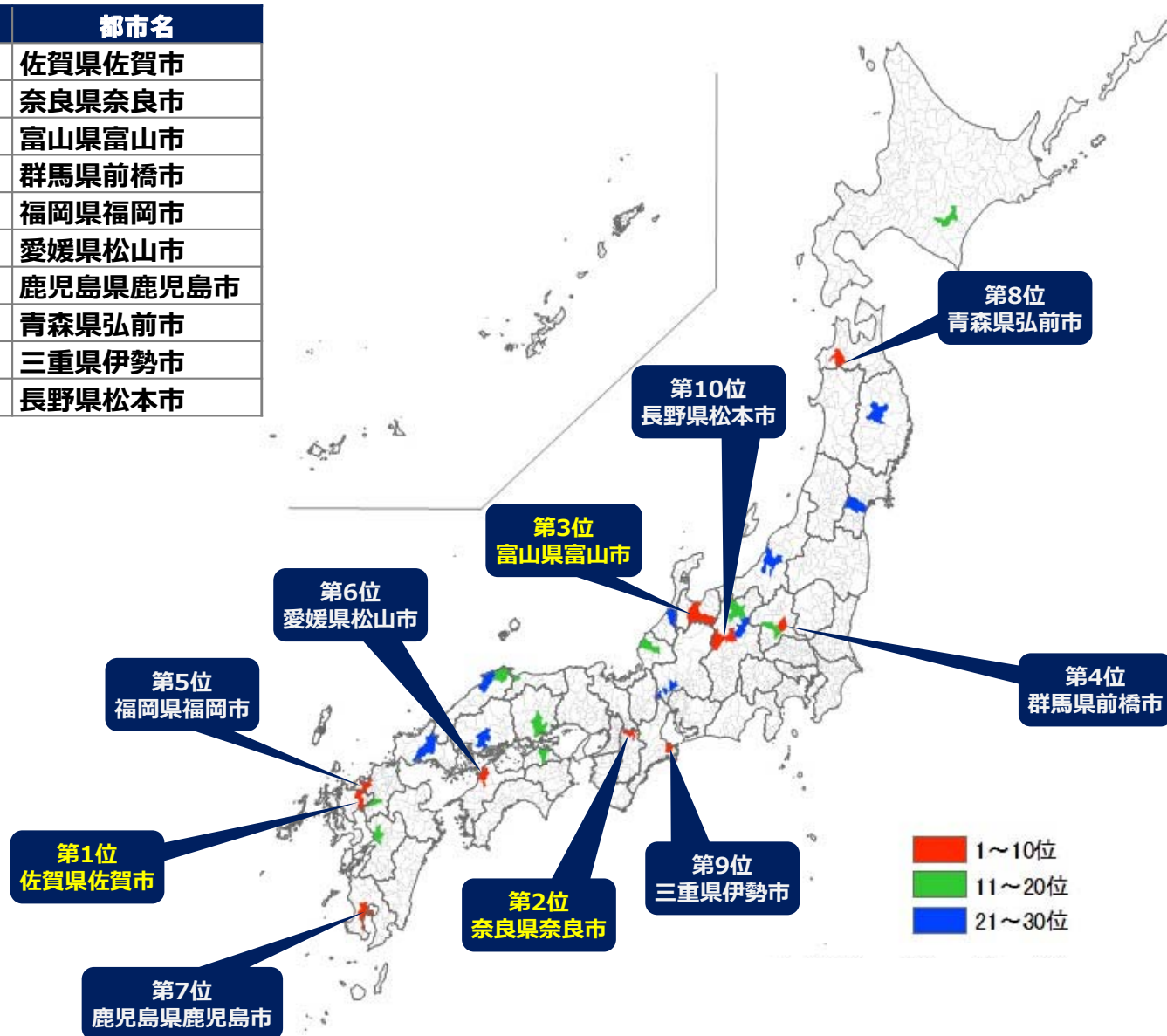
第3位 千葉県千葉市

- 国際会議場があり、ビジネス目的で来訪する外国人ビジネスパーソン数が多い。また留学生数も多く、海外人材が集積している
- 大学が多く立地しているため人口あたりの学生数も多く、博士など専門性を持つ人材が豊富
- 出生率が低く、若年層も他都市に流出しており、生産年齢人口の減少が懸念

「成長可能性都市ランキング」結果

評価視点別ランキング: ⑤都市の暮らしやすさ

順位	都市名
1	佐賀県佐賀市
2	奈良県奈良市
3	富山県富山市
4	群馬県前橋市
5	福岡県福岡市
6	愛媛県松山市
7	鹿児島県鹿児島市
8	青森県弘前市
9	三重県伊勢市
10	長野県松本市



第1位 佐賀県佐賀市

- 人口あたりの医療機関数や小売店数、飲食店数が多く、医療、買い物、飲食など日常生活の環境が充実している。
- 生活コスト全般が安く、少ないコストで質の高い住宅に住むことができる。市民の日常生活の満足度が総じて高い。
- 車を使わなければ生活が出来ない点を不満とする市民が多い

第2位 奈良県奈良市

- 医療や日常の買い物が充実し、必要な場所がコンパクトにまとまっている。暮らしやすさに対する市民の満足度が高いことが特徴
- 静けさや景観の美しさ、治安の良さ、自然災害に対する安全性など、安心して暮らせる要素が揃っている
- 公共交通機関の充実度や飲食店の豊富さで不満を感じている市民が多い

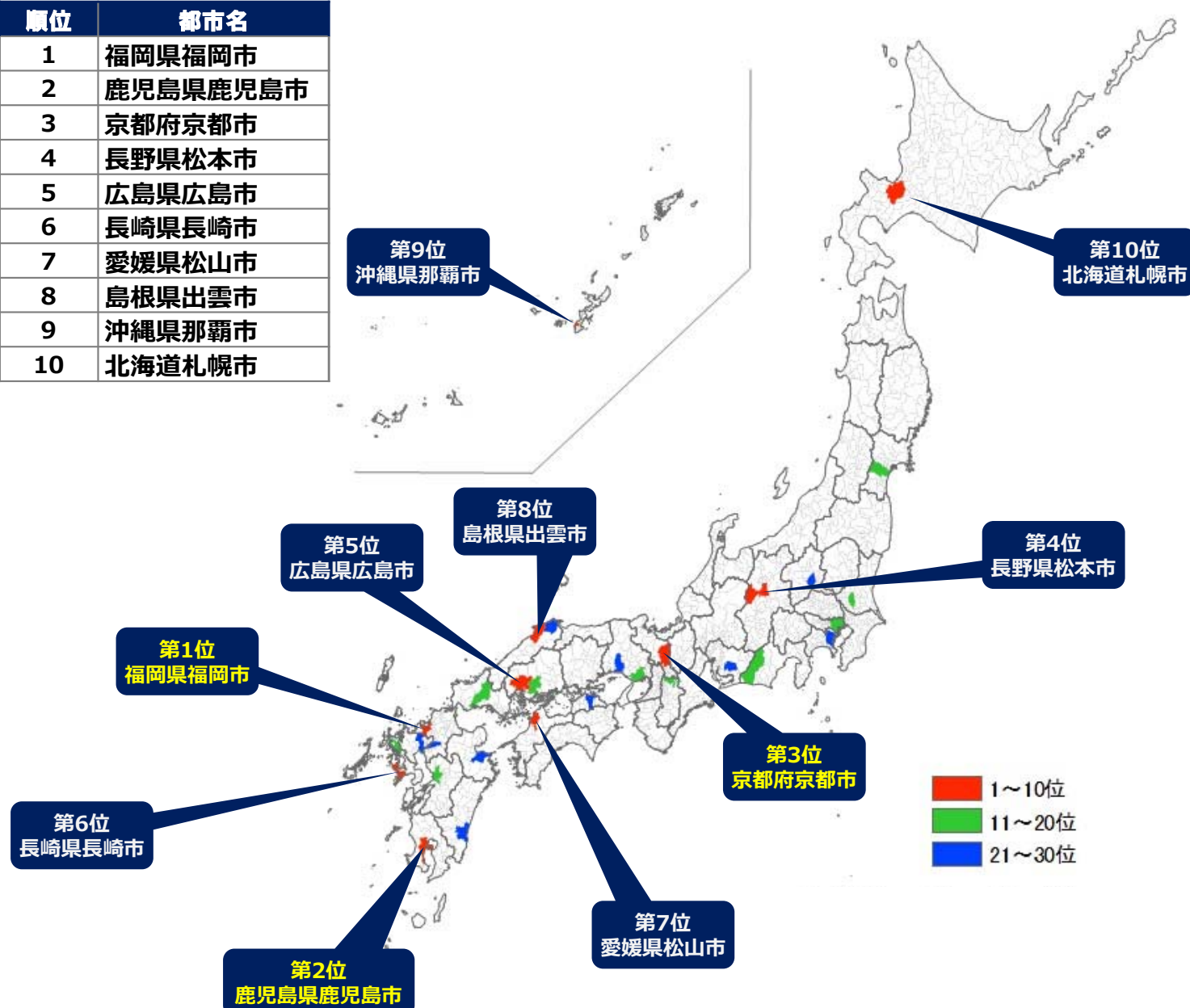
第3位 富山県富山市

- 街がコンパクトにまとまっており医療、買い物が充実した生活しやすい街
- 空気や水のきれいさ、海や山の近さ、街並みの美しさなど都市の利便性と自然の豊かさを両立しており市民の満足度も高い
- 高齢者や女性の有業率が高く、若年層の流出も少ないため皆が活躍できる環境がある

「成長可能性都市ランキング」結果

評価視点別ランキング: ⑥都市の魅力

順位	都市名
1	福岡県福岡市
2	鹿児島県鹿児島市
3	京都府京都市
4	長野県松本市
5	広島県広島市
6	長崎県長崎市
7	愛媛県松山市
8	島根県出雲市
9	沖縄県那覇市
10	北海道札幌市



第1位 福岡県福岡市

- 社会が活気にあふれ、住む人が生き活きとしている。よそ者に対する寛容度が高く、高齢者やおひとりさま、外国人などすべてに対して開かれた雰囲気がある
- 飲食店や買い物の場所が非常に充実しておりこだわりの店やナイトライフも楽しめる
- 他の大都市と比べ物価や住宅コストも安い
- 空港や新幹線など交通も非常に充実している

第2位 鹿児島県鹿児島市

- 地域コミュニティの絆が強く、助け合える・困ったときに相談できるなど居心地の良い街
- そのため、高齢や子育て世代も安心して暮らせる雰囲気がある
- 新たな出会いや新しいことに挑戦できるわくわく感を住民がもっている
- 住民の生活環境への満足度が高く、清潔さ、静かさ、街並みの美しさなどで高評価

第3位 京都府京都市

- 文化財や世界遺産が非常に多く、歴史や文化を感じながら生活ができる
- 文化や芸術とのふれあいが多く、新たな出会いや新しいことが起きる雰囲気に満ちている
- 魅力的な飲食店や商店が多数が存在し、魅力的な都市生活を演出する
- 生活に必要な場所がコンパクトにまとまっており車を使わずに生活できる点も高評価

「成長可能性都市ランキング」結果 ライフスタイル別ランキング

※これまでのランキングで紹介していない都市のうち、特徴的な都市(網掛け)をピックアップして説明。

移住者にやさしく適度に自然がある環境で仕事ができる

順位	都市名
1	鹿児島県鹿児島市
2	長野県松本市
3	宮崎県宮崎市
4	群馬県前橋市
5	北海道札幌市
6	福岡県久留米市
7	長崎県佐世保市
8	長野県長野市
9	福岡県福岡市
10	茨城県つくば市

長野県松本市
(総合ランク8位)

- 移住フェア、相談窓口、空き家バンク、職業斡旋など移住者向けの支援が充実している
- 多様性への寛容度が高く、地域コミュニティでも受け入れる風土がある
- 街の綺麗さ、静かさ、景観の美しさ、治安の良さなど安心して暮らせる要素もそろっている
- 医療や買い物、飲食が充実し、都市の利便性を享受できる上に、雄大な山々を臨み自然も楽しめる

リタイア世代が余生を楽しみながら仕事ができる

順位	都市名
1	鹿児島県鹿児島市
2	福岡県福岡市
3	愛媛県松山市
4	長野県松本市
5	北海道札幌市
6	福岡県久留米市
7	島根県出雲市
8	群馬県前橋市
9	熊本県熊本市
10	東京都特別区部

愛媛県松山市
(総合ランク15位)

- 高齢者やおひとりさまでも楽しく、安心して暮らせる雰囲気のある街
- コンパクトな街で医療や買い物、飲食も充実しており、車を使わなくても生活できると答える市民も多い
- 治安が良く災害安全性も高い点も安心につながっている
- こだわりの店やナイトライフが充実しており、余暇を過ごす場所も多い

子育てしながら働ける環境がある

順位	都市名
1	長野県松本市
2	群馬県前橋市
3	佐賀県佐賀市
4	鹿児島県鹿児島市
5	長野県上田市
6	福岡県福岡市
7	新潟県長岡市
8	熊本県熊本市
9	奈良県奈良市
10	島根県出雲市

群馬県前橋市
(総合ランク26位)

- 地域コミュニティの絆が強く、家族と過ごす時間も多傾向にあり子供を見守る環境がある
- 医療や買物が充実し生活コストも安いと、市民の生活満足度が高い点も特徴
- 治安や安全性が高いこと、公園や緑地など憩いの空間が充実しているなど子育てには重要な要素も満たしている

起業スピリッツがあり
スモールビジネスにも適している

順位	都市名
1	東京都特別区部
2	茨城県つくば市
3	福岡県福岡市
4	京都府京都市
5	北海道札幌市
6	長崎県佐世保市
7	石川県金沢市
8	神奈川県横浜市
9	兵庫県神戸市
10	長野県松本市

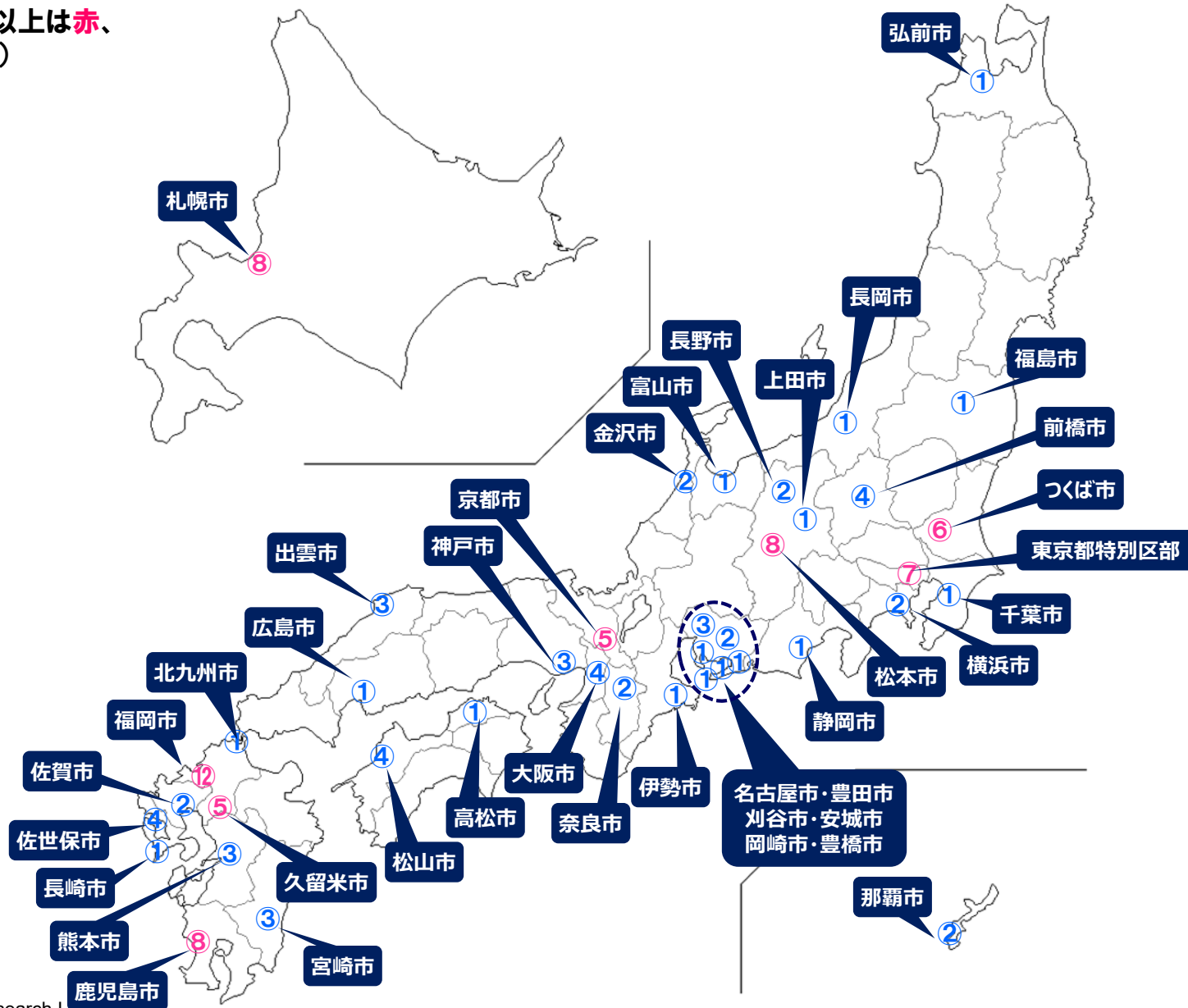
石川県金沢市
(総合ランク18位)

- 自治体の創業支援の補助金やサテライトオフィス・シェアオフィスなどの施設も充実している
- 日常からアートと触れ合う機会が多く、イノベーションが起きる風土がある
- 住民に起業家精神を持つ人が多く、起業家が街の発展に貢献すると考える傾向がある
- 街に活気がありわくわく感を感じている住民が多い

「成長可能性都市ランキング」結果

今回算出した12のランキングにおいて、1つでも10位以内にランクインした都市は全国で40都市。
福岡は全てのランキングで10位以内。全体的に、九州の都市の強さが目立つ。

注:数字は、10位以内にランクインした
ランキングの数。(5つ以上は赤、
それ以下は青で表示。)



結果の考察とまとめ

ランキング結果を踏まえた地方創生のあるべき姿

- メガリージョン(三大都市圏)以外の地方部にも、産業創発力を秘めた都市は多数ある。
- ローカルハブになる可能性を秘めた“成長可能性都市”は、**福岡市、鹿児島市、つくば市、松山市、久留米市**など。
- **福岡市**は、産業創発力を構成するすべての要素をバランスよく満たしている。これまでは、産業集積が乏しい支店経済のまちであったが、全国最高評価の「都市の魅力」をはじめ、持てる強みを活かしてビジネスを創出し、東京・大阪・名古屋に次ぐ第4の都市圏として成長していくことが期待される。
- **鹿児島市、久留米市、松本市、佐世保市**など、一見、産業創発というイメージが乏しい都市が、都市の魅力や多様性への寛容度等の面で、高いポテンシャルを有している。こうした強みを、企業・人材の誘致、ビジネスの創出につなげていく仕組みの構築が必要である。
- 移住者にやさしく自然がある環境で働くな**ら鹿児島市**、子育てしながら働くな**ら松本市**、起業するな**らつくば市**など、強み・魅力は都市によってさまざまである。各都市が、国内の限られた市場を奪い合うのではなく、自らの強みを活かし、他都市と差別化しながら、地域経済の核である「ローカルハブ」となって世界と結びついていくことで、日本が総体として成長していくことができる。
- 多様な「ローカルハブ」を育てていくことは、地方創生だけでなく、災害に強い強靱な国土を実現していくことにもつながる。国は単なる「ばらまき」ではなく、各都市の強みやローカルハブになる(自立する)ポテンシャルを踏まえ、効率的・効果的に投資を行っていくことが必要である。

NRI

未来創発

Dream up the future.